

暫定版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

決算審査特別委員会環境経済分科会記録

日	令和7年9月24日（水）（第3回定期会）			
時	休憩 午前9時59分 開議 （午後0時2分～午後0時58分） 午後2時33分 散会			
場所	第1委員会室			
出席委員	白鳥 誠	須藤 博文	山崎 真彦	渡辺 忍
	梶澤 洋平	蛭田 浩文	櫻井 崇	森山 和博
	三須 和夫	石橋 肇		
欠席委員	なし			
担当書記	遠藤知美 伊藤祐貴			
説明員	経済農政局			
	経済農政局長 安部 浩成	経済部長 長谷部 収		
	農政部長（農業委員会事務局長併任） 渡部 義憲	農政センター所長 圓城寺 英樹 (農業経営支援課長事務取扱)		
	経済部参事（地方卸売市場長事務取扱） 滝田 希成	経済企画課長 中臺 良知		
	雇用推進課長 本吉 哲也	産業支援課長 木見 康平		
	スタートアップ支援室長 日野 正仁	企業立地課長 清水 健次		
	観光MICE企画課長 山崎 和貴	観光プロモーション課長 高柳 弥		
	公営事業事務所長 稲増 浩	事業推進担当課長 蚊谷 友浩		
	農政課長 豊田 貴光	農地活用推進課長 森田 悟 (農業委員会事務局次長併任)		
	農業生産振興課長 中田 照子	総括主幹 柴田 真吾		
審査案件	令和6年度決算 経済農政局所管、農業委員会所管			
協議案件	指摘要望事項の協議			
その他				
主査 白鳥 誠				

午前9時59開議

○主査（白鳥 誠君） ただいまから決算審査特別委員会環境経済分科会を開きます。

本日の審査日程につきましては、まず経済農政局及び農業委員会所管の審査を行った後、指摘要望事項の協議をお願いいたします。

なお、農業委員会所管については農政部長が農業委員会事務局長を併任していることから、経済農政局所管と一括して審査を行います。

経済農政局及び農業委員会所管審査

○主査（白鳥 誠君） 経済農政局及び農業委員会所管の令和6年度決算議案の審査を行います。

委員の皆様はサイドブックスのしおり1番、主要施策の成果説明書をお開きください。

それでは、当局の説明をお願いいたします。経済農政局長。

○経済農政局長 皆様、おはようございます。経済農政局長の安部でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

経済農政局所管の決算状況につきまして、令和6年度主要施策の成果説明書に沿って御説明申し上げます。着座にて失礼いたします。

主要施策の成果説明書165ページからの経済農政局歳入歳出決算額状況表をお願いいたします。

金額は一部を除き100万円未満を切り捨て、100万円単位で御説明申し上げます。

初めに、一般会計です。167ページをお願いいたします。

歳入ですが、上段の表の一番下、計の欄を御覧ください。

予算現額は103億1,000万円、その右、調定額は83億9,960万円、その右、収入済額は83億9,920万円となっております。

収入済額の主なものでございますが、167ページ左上の科目的列の上から5行目、項3・貸付金元利収入、目8・中小企業金融対策貸付金元利収入の行ですが、そのまま168ページにお進みいただきまして、収入済額は60億円で、前年度の決算額と比較いたしますと20億円の減となっております。これは、融資残高の減に伴い中小企業至近融資預託金収入が減額したことによるものでございます。

なお、168ページの右から2列目に記載のあります収入未済額、雑入の40万円は中小企業資金融資利子補給金の返還金の未納によるものでございます。

続いて、歳出でございます。もう一度、左側の167ページへお戻りください。

下段表の一番下、計の欄を御覧ください。

予算現額の142億9,200万円に対し、支出済額は121億8,100万円で、記載はございませんが執行率は85.2%でございます。前年度の決算と比較いたしますと33億9,100万円の減となっております。これは、融資残高の減少に伴い、中小企業資金融資預託金が減額となったほか、令和5年度の単年度事業として物価高騰対策である消費活性化・生活支援キャンペーン事業を実施したことなどによるものでございます。

次に、支出済額の主なものですか、歳出の表の一番左科目的列、款5・労働費、右に2つ隣

の支出済額1億8,500万円は労働対策関係費及び千葉市産業振興財団に対する勤労者福祉サービスセンター運営補助金等です。

次に、3行下の款6・農林水産業費、支出済額8億2,000万円は未来の千葉市農業創造事業及び新規就農の推進に係る経費等でございます。

次に、款7・商工費、支出済額111億3,300万円は中小企業金融対策及び企業立地促進に係る経費等でございます。

次に、下から4行目の款14・災害復旧費、支出済額4,100万円は令和5年9月の台風13号の被害に伴う農業施設の復旧経費でございます。

右側の168ページをお願いいたします。

一番下の行の真ん中、不用額の合計は14億9,900万円で、その主なものは企業立地促進融資制度において、本融資制度を活用せず自己資金などにより施設整備を行った企業が当初の見込みより多かったことなどによるものでございます。

ページをおめくりいただきまして、169ページをお願いいたします。

競輪事業特別会計でございます。

初めに、歳入ですが、右側の170ページ上の表の一番下の行を御覧いただきますと、収入済額の合計は46億5,100万円で、主なものは、その表の一番右の列、備考の上から3行目にございますとおり、勝者投票券売上金38億8,300万円でございます。なお、収入未済額426万円は、旧競輪場内売店貸付料の未納によるものでございます。

次に、歳出ですが、左の169ページ、下の表を御覧ください。

支出済額の主なものが、一番左の科目の列、款1・競輪事業費、項1・事業費、目3・開催費、右に2つ行きまして43億3,500万円は主に勝者投票券の払戻金や選手賞金等です。なお、一般会計への繰出金は、その2行下の款2・繰出金の欄に記載のとおり1,632万円でございます。

ページをおめくりいただきまして、171ページをお願いいたします。

表一番下の左から3列目の支出済額の合計は46億1,100万円で、記載はございませんが執行率は91.5%でございます。

右のページ172ページの真ん中、不用額の合計は3億9,900万円で、これは投票券の売上げが見込みを下回ったことによる払戻金の減などによるものでございます。

ページをおめくりいただきまして、173ページをお願いいたします。

地方卸売市場事業特別会計でございます。

まず、歳入ですが、上段の表を御覧ください。

右側の174ページの一番左の列、収入済額の合計は8億9,500万円で、その主なものは施設使用料、電気使用量等立替金収入などの諸収入でございます。

なお、収入未済額の合計は6,000万円で、これは場内事業者の施設使用料等の未納によるものでございます。

次に、歳出ですが、左側の173ページの下の表の一番下の行の右端を御覧いただきますと、支出済額の合計は8億9,500万円で、記載はございませんが執行率は83.1%でございます。主なものは、施設管理に係る光熱水費や委託料のほか、施設の老朽化に伴う修繕費などでございます。

右の174ページの真ん中、不用額の合計は1億8,100万円で、これは電気料金が見込みを下回ったことに伴う光熱水費の減などによるものでございます。

以上で、経済農政局の歳入歳出決算の概要となります。

引き続き、主な施策の概要及び成果につきまして各部長から御説明申し上げます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○主査（白鳥 誠君） 経済部長。

○経済部長 経済部長の長谷部と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。座って説明させていただきます。

主要施策の成果説明書の175ページをお願いします。

なお、新規または拡充事業を中心に説明をさせていただきます。

初めに、1の労働対策、6,463万2,000円ですが、1の人材育成・採用力向上支援では、新規事業として人材確保のための資格取得や市内企業のリスクリキングに要する経費を支援し、それぞれ33件、65件を助成しました。

2の産業人材育成では、ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアムにおける教育事業を拡充し、新たなコンテンツを追加して実施しました。

3の求人・求職支援として、奨学金返還サポートの対象校を拡充して募集を行うとともに、市内企業に就職した学生の奨学金返還を支援しました。

次に、2の公益財団法人産業振興財団関係費、2億9,466万5,000円ですが、1の産業振興財団事業費補助等は財団が行う中小企業向けの（1）経営・技術支援や（2）产学連携、（3）販路拡大支援、（4）創業支援に対し助成するもので、ＩＣＴ生産性向上・事業変革支援を20件、新規市場開拓支援を16件など記載の事業を実施しました。

次に、176ページをお願いします。

3の物価高騰等経済対策、3億9,185万7,000円ですが、原油価格・物価高騰等の影響を受けた市内事業者等に対して、国等の各種支援に加え市独自の経済対策を行いました。

（1）中小企業者エネルギー価格等高騰対策支援金第2弾、及び（2）観光バス事業者燃料費高騰対策支援金の令和6年度決定分で給付件数、給付台数は記載のとおりとなっております。財源の国の地方創生臨時交付金を活用しました。

4の創業支援、2,622万9,000円ですが、地域経済の新たな担い手や新たな価値を創出するため記載の事業を実施しました。特に、4の女性向け起業機運醸成では（1）（2）の2事業を今まで以上に連携させることで記載の成果となっております。

1つ飛ばしまして、177ページをお願いします。

6の地域商業・中心市街地活性化対策、1,522万円です。

1の商店街環境整備では、商店街の要望を伺い3団体に費用助成するとともに、2の中心市街地活性化事業補助により商工会議所などと連携して記載の事業に取り組みました。

7の中小企業金融対策61億7,265万6,000円ですが、中小企業資金融資制度において60億円を取扱金融機関に預託するとともに、表の上から3行目の令和6年度新規融資実行欄に記載のとおり、新規に金融機関が約133億円の融資を実行し、市内中小企業者の資金繰りを支援しました。

拡充費用としましては、その下段、新たにＳＤＧｓの取組を推進する事業者に対する利子補

給率の優遇制度を創設し、156件の活用がありました。なお、支援メニューごとの実行額の内訳は記載のとおりとなっております。

次に、178ページをお願いします。

8の企業立地の促進、19億6,939万1,000円ですが、税源の涵養や雇用創出を図るため、市外企業の立地及び市内企業の追加投資に伴い取得した資産に係る固定資産税相当額等を助成しました。

(1) 企業立地促進事業補助金として、令和6年度は表に記載のとおり事業の計画認定が46件、新規助成が41件、継続助成が86件となりました。拡充事業としましては(3)に記載しております。新たに所有型において、カーボンニュートラル関連の投資を行う際の特例奨励補助を創設し、5件の認定を行いました。

1つ飛ばしまして、179ページをお願いします。

次に、10の産業用地整備支援、812万5,000円ですが、産業用地を整備するため事業計画認定をした(仮称)ネクストコア千葉生実の進捗について審査会による評価などを行い、各種許認可に必要な手続を進めるとともに、次期候補地選定の基礎調査を行いました。

11のMICEの推進、1,619万5,000円ですが、MICEの誘致、開催により地域経済の活性化を図るため、市内における各種MICEの開催支援を行っており、(1)グリーンMICE開催支援補助金では、脱炭素化に資する経費などへ助成をしました。

12の観光行事開催、4,601万円ですが、(2)の千葉湊大漁まつりにつきましては荒天中止となり、記載はありませんが準備にかかった費用456万1,000円を決算額としております。

次に、180ページをお願いします。

13の観光プロモーションの推進、2,413万5,000円ですが、特色ある地域資源を活用した観光プロモーションに加え、インバウンド需要を取り込むため、ターゲットに合わせた以下のプロモーションを行いました。

(1)のグリーンツーリズムの推進では、イに記載のチバノサト四季を楽しむおでかけMAPの作成・配布では滞在時間を延ばすため、サイクリングマップや歴史探訪などの記載を盛り込み発行しました。

(2)の訪日外国人旅行者向けプロモーションでは、インバウンド向けのメディアやSNSを活用した情報発信などに取り組みました。

次に、181ページをお願いします。

競輪事業特別会計になります。

1の競輪開催、46億1,127万6,000円ですが、本場開催は表に記載のとおり第1回から第12回まで、48節96日開催しました。なお、実績は一番下の合計欄のとおり入場人員は3万1,485人、売上高は38億8,322万8,000円となりました。このほか一般会計へ1,632万円の繰出しを行っております。

次に、182ページをお願いします。

最後に、地方卸売市場事業特別会計になります。

1の市場運営、8億9,506万円ですが、運営状況は表に記載のとおり青果部全体の取扱数量が8万347トン、取扱金額は232億546万6,000円。水産物部全体の取扱数量が7,964トン、取扱金額は104億3,185万8,000円。青果部、水産物部を合わせまして取扱数量が8万8,311トン、取

扱金額は336億3,732万4,000円となりました。

経済部の説明は以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 農政部長。

○農政部長（農業委員会事務局長併任） 農政部長の渡部です。よろしくお願ひいたします。

それでは、座って説明をさせていただきます。

農政部所管の主な施策の概要及び成果について説明いたします。

主要施策の成果説明書183ページをお願いいたします。

初めに、1の食のブランド千の推進、2,311万4,000円ですが、食のブランド千の推進を図るため、（1）食のブランド認定制度を展開し、ア、食のブランド千の認定事務として新たな認定品及びサービスを13件認定するとともに、イからオに記載の取組を実施いたしました。また、（2）料理教室を活用したプロモーションとして、ア、オンライン教室やイ、クッキングスタジオでの対面型料理教室のほか、ウ～カに記載の取組を実施いたしました。

次に、2の農業施設災害復旧、4,177万2,000円ですが、令和5年9月の台風13号により被害を受けた農業施設を3か所復旧したもので、繰越予算にて掲載をしました。

次に、3の耕作放棄地の再生促進257万2,000円ですが、耕作放棄地の再生に係る経費を助成し、担い手や法人への農地の流動化を促進しました。件数は4件、対象農地面積は3万861平米です。

次に、184ページをお願いいたします。

4の未来の千葉市農業創造、1億858万8,000円ですが、本市農業の持続性を高めるため農業機械や施設を導入する農業者に助成したもので、1、経営拡大支援として16件、2、新規就農支援として2件、3、農業法人等算入促進支援として2件の助成を行いました。

次に、5の有害鳥獣対策の推進、2,846万円ですが、農作物の安定生産及び農業者の経営安定を図るため、千葉市鳥獣被害防止対策協議会が地域の農業者等と一体となって行う総合的な被害防止対策を支援しました。（1）中型獣集中捕獲モデル地区事業、（8）イノシシ出没前線地域集中捕獲事業のほか（2）から（7）に記載の取組を実施しました。

次に、185ページをお願いいたします。

6の新規就農の推進、5,314万8,000円です。記載にはございませんが、平均すると個人法人含め年に二十前後の経営体が新規参入する中、1、新規就農希望者向け研修は（1）ニューフィアマー育成研修では新規就農希望者を確保、育成するため、これまでの経験や希望に応じてコースから選べる研修をアドバンスコース、育成コースとともに計4人に対し実施いたしました。

2、経営発展支援は新規就農者の就農後の経営発展のため、施設・機械設備の導入経費を助成しました。件数は3件です。

3、経営開始資金は青年の就農後の経営を支援するため経営開始資金を交付しました。交付者数は個人15人、夫婦4組です。

4、新規就農地再生支援は新規就農者が就農時に必要となる農地の草刈りや土壌改良等の初期整備費に対し助成しました。件数は3件、対象農地面積は1万4,144平米です。

次に、186ページをお願いいたします。

7の耕畜連携の推進、115万9,000円ですが、耕種農家と畜産農家の経営安定を図るため、貸出用のマニアスプレッダ、堆肥散布機を購入し、飼料の生産、堆肥の活用を連携して行う取組

を実施しました。

最後に、8のみどりの食料システム戦略、1,731万円ですが、再生可能エネルギーを活用したトマト栽培の燃油削減実証を行うため、千葉市SDGs対応型施設園芸推進協議会に対し、太陽光発電や省エネ機器の整備に係る経費を助成しました。

農政部は以上です。

引き続き、農業委員会事務局の令和6年度歳入歳出決算額の状況について御説明いたします。ページが飛びまして恐縮ですが、主要施策の成果説明書279ページをお願いいたします。

まず、農業委員会事務局の令和6年度歳入歳出決算の状況について説明いたします。

金額は1,000円未満を切り捨て1,000円単位で説明いたします。

初めに、歳入ですが、上段の表一番下の計の欄を御覧ください。

予算現額は698万3,000円で、調定額は672万9,000円、収入済額も同額です。内訳ですが、表の上から3段目の款18・使用料及び手数料の欄を御覧ください。

280ページに進んでいただきまして、収入済額の欄ですが5万5,000円は各種農地証明の発行に係る手数料です。

次に、款20・県支出金の収入済額602万1,000円は事務局職員の人事費等に係る県からの補助金及び委託金です。

次に、款25・諸収入の収入済額、65万3,000円は独立行政法人農業者年金基金からの農業者年金業務委託金となります。

続いて、下段の歳出ですが、款6・農林水産業費の予算現額3,230万8,000円に対しまして支出済額は3,036万円で、記載しておりませんが執行率は94%です。支出済額の主なものは農業委員、農地利用最適化推進の報酬です。

次に、281ページをお願いいたします。

続いて、主な施策の概要及び成果について説明いたします。

初めに、1の農業委員会運営、335万1,000円ですが、1、農業委員会総会は委員数17人で12回開催いたしました。年間の農地法に関する許可・届出状況は表に記載のとおりです。

2、農地利用最適化推進員連絡協議会は委員数23人で2回開催しました。

3、農業委員・農地利用最適化推進委員合同会議は4回開催いたしました。農業委員会会長を除く39人の委員は、4、事前審査第1班・第2班、5、広報・普及班、6、農地利用最適化推進企画班に分かれた活動をしておりまして、それぞれ記載のとおり会議を開催いたしました。

次に、2の農業振興、68万9,000円ですが、農業委員会だよりを年3回発行したほか、遊休農地の調査、指導を実施いたしました。

次に、282ページをお願いいたします。

3の農地管理、175万5,000円ですが、1、農地違反転用防止対策は違反転用を26件是正指導し、このうち是正されたものが20件、未是正が6件です。

このほか2、農地基本台帳システムの運用管理を行いました。

説明は以上です。よろしくお願ひいたします。

○主査（白鳥 誠君） ありがとうございました。

それでは、御質疑等がありましたらお願ひいたします。森山委員。

○委員（森山和博君） 一問一答でお願いします。

初めに、成果説明書にはありませんけれども、経済企画課が行っていましたナイトタイムエコノミーについて伺いたいと思います。

ナイトタイムエコノミー推進の支援ですが、募集を千葉市の街巡りのコンテンツの創出で行われたと伺っておりますが、令和6年度の取組の総括を、まず、全体的に伺いたいと思いますのでよろしくお願いします。

○主査（白鳥 誠君）　観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長　観光プロモーション課です。

令和6年度の総括で、周辺への回遊性を重視しました募集テーマを設定しまして、令和6年度はその方針に沿った事業者間の連携や回遊促進の取組事業が申請、採択されました。また、事業者や審議会から通年募集や春のイベント対応といった要望、意見があつたことから、令和7年度からは募集回数を増やしております。さらに、債務負担行為により前年度中に審査を実施しまして春のイベントにも対応いたしました。令和6年度採択を受けた6事業に約6万7,000人が来場されまして、地域経済の活性化や夜のにぎわい創出に一定の成果が上げられたものと考えております。

○主査（白鳥 誠君）　森山委員。

○委員（森山和博君）　ナイトタイムエコノミー、どのようにして広げていくのがいいのかと、多分非常に工夫もなされてきているのだろうと思うんですけれども、令和5年度、一昨年と比べて、令和6年度は補助上限額を半分にしたり、採択事業者を増やそうとされたと思うのですが、その結果はどのように現れていますか。

○主査（白鳥 誠君）　観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長　観光プロモーション課です。

採択事業者数につきましては、令和5年度の4件に対しまして令和6年度は6件となりまして、2件の増加になっております。事業者の新たな参画が得られるようになった点で成果があつたものと考えております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君）　森山委員。

○委員（森山和博君）　開催の工夫、募集の対象の工夫も評価いたしますし、今回はナイトタイムエコノミーで街巡りコンテンツの創出なのですが、非常に千葉市として、千葉都心としてウイークな分野かと思いますが、ナイトタイムエコノミーを続けることによって今後の方向性を確認したいと思います。お聞かせください。

○主査（白鳥 誠君）　観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長　夜間におきましてもイベントや文化活動、飲食など多様な取組が展開できる環境を整えることにより、来街者の増加や消費の喚起を図り地域の活性化につなげてまいりたいと考えております。あわせて、観光客の皆様から本市ならではの魅力があると評価され、滞在して楽しんでいただける都市を目指してまいりたいと思います。

以上です。

○主査（白鳥 誠君）　森山委員。

○委員（森山和博君）　しっかり取り組んでいただくことを求めておきたいと思います。

次に、成果説明書に移りまして、雇用推進課の労働対策の中の項目2番の産業人材の育成で

ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム等の取組について伺いたいと思います。

まず、令和6年度の取組について幾つか私も確認してきたんですけれども、まず、西千葉子ども起業塾2024の成果について伺いたいと思います。こちらは、JFEスチール株式会社に御協力をいただいて、食の力で地域とJFEスチールをつなげるビジネスに挑戦されておりました。小学4年生から6年生と中学1年生から3年生、定員30名でございましたが、どのような内容のもので、どのような成果があったのかお聞かせください。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 雇用推進課でございます。

昨年度につきましては、イベントで出店するキッチンカーでのオリジナルメニューを開発してほしいとJFEスチールから発注を受けまして、ピザの商品開発やJFEの社員との商談といった企業体験を行っております。募集定員30人に対し、同数の参加をいただいているところでございます。

実施後の保護者へのアンケート調査では、チャレンジ精神の育成や、お金や会社の仕組みを学んでほしいといった期待を持って参加されている実態がありますが、実施後のアンケートにおいて全ての方から、その目的が達成されたと御回答をいただいているところでございます。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 森山委員。

○委員（森山和博君） ほかにもありますて、次に千葉市夏休みおしごと感動体験Walk Work Work Days 2024の成果も伺いたいと思います。JR千葉駅や、海浜幕張駅周辺の百貨店、店舗、事業者等の78か所で小学3年生から6年生を対象に、こちらは定員940名で仕事体験イベントが開催されたと伺っております。こちらもどのような内容で、どのような成果があったのか、お聞かせください。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 Walk Work Work Days につきましては、小学3年生から6年生を対象に市内事業所あと店舗で職業体験をしていただくものでございます。

私どもとしては、将来の仕事について考える機会の提供を目的に実施しております。昨年度は定員に対して約4倍の3,700人の応募がありまして、例年好評の企画となっております。実施後のアンケートにおきましても、お子様との仕事や職業観について話し合うきっかけとなったと回答いただいた方が9割を超える状況となっておりまして、キャリア教育の効果があったものと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 森山委員。

○委員（森山和博君） もう一つ、千葉公園では起業チャレンジ2024が行われています、こちらは対象が市内高校生で定員8名でございました。こちらも、どのような内容か成果も含めてお知らせください。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 千葉公園起業チャレンジにつきましては、コンソーシアムの構成員であります拓匠開発による高校生を対象とした千葉公園活性化につながるビジネスを考える起業体験プログラムとして実施しております。定員8名に対して7人の参加となりました。

今回は千葉公園でのクリスマスイベントの出店に向けて商品開発を行ったほか、商品のサプライヤーを自ら開拓するといった少しレベル感の高い内容となっております。事前、事後アンケートを高校生向けに行いまして、特に現状を分析し目的や課題を明らかにする力といったものや、新しい価値を生み出す力のところで上昇傾向が顕著に現れた結果になっております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 森山委員。

○委員（森山和博君） 今回、産業人材育成の中のちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアムは、非常に重要な取組と思っております。残念ながら私がその場で体験する機会がなかったので、今回細かく実施された事業を確認させていただきましたが、市としてこのような事業を継続、拡充していく上で、事業評価をきちんと図らないと、なかなか継続していくのが難しいと思いますが、これまでの3つの事業等々も含めてどのように捉えていらっしゃるのか、お聞かせいただきたいと思います。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 これまで複数のプログラムの実施を通じまして、お子様に職業観の醸成の効果はあったんではないかと考えております。また、これまでの取組によりまして、企業などが参画いただいておりますコンソーシアムが形成された、構成されたことが、地域での起業を含めたキャリア教育の体制ができたのが、我々としては一つのまた成果であると考えております。

今後の方向性につきましては、現在、中学生をメインターゲットとしたプログラムが少し薄いものですから、そのような開発をしたいというところですとか、あとはプログラムが増えてきましたので、体系化も少し検討していきたいと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 森山委員。

○委員（森山和博君） 未来ある子供たちとの取組なので非常に評価しております。全序的にはこども・若者会議が役所には出来上がったので、その辺との齟齬がないように調整していただきながら、全部が全部その取組がこども・若者会議に入るとは思わないんですけども、意見を聞くときに、こういう取組はどうだろうかなど、そのようなテーマにはなるのではないかと思いましたので、ぜひ全序でコンソーシアムの取組を広げていただければと思いました。

次に行きたいと思います。次は、産業支援課の取組です。

まず、物価高騰等経済対策について昨年もやっていただきました、原油価格・物価高騰等の影響を受けた市内事業者に対しての取組で、意見を述べたいと思います。

国等の各種支援に加えて、市独自の経済対策として中小企業者エネルギー価格等高騰対策支援については速やかに6,500件を超える給付を実施されたことを評価しておりますので、ありがとうございました。

引き続き、産業支援課の部分に行きたいと思いますが、創業支援についてですが、1、イノベーション拠点整備支援、2、創業支援補助金、3、アクセラレーションプログラム、4、女性向け起業機運醸成、そのほかにもここには記載はありませんでしたが、調べますと東日本・西日本のスタートアップ夏フェス2024の開催、副業プロ人材の活用、市内経営者を対象にしたDX化に関してのセミナーの開催、起業の広域的な取引のきっかけづくりや新たなビジネスチャンスの創出として九都県市合同商談会をさいたまスーパーアリーナで開催されておりました。

積極的な取組を評価しているところです。

そのような取組の結果、千葉市のスタートアップ起業として注目しているのが、超狭小空間を飛ぶことができる点検ドローンを用いた設備保全等を行う株式会社Liberawareに注目したんですけれども、千葉市が創業支援でLiberawareの企業の取組にどのような後押しとなったのか、お聞かせいただきたいと思います。

○主査（白鳥 誠君） スタートアップ支援室長。

○スタートアップ支援室長 スタートアップ支援室長でございます。

千葉市の創業支援がLiberawareの企業の取組にどのような後押しになったかでございますけれども、幾つかの取組がございました。まず、具体的に申し上げますと、令和元年度になりますが、トライアル発注認定事業、こちらにおきまして同社の設備点検あるいは空間の計測サービスを認定しまして、下水道維持課におけるいわゆる排水設備の点検等に導入をさせていただいたものがございます。あと、令和4年度になりますけれども、私どもで行っておりますアクセラレーションプログラム、こちらで採択をさせていただきまして、投資家との面談のサポートや、あるいは販路開拓に向けた提案のプラッシュアップの支援を実施させていただきました。

結果としまして、これらの支援が同社のサービスの信頼性あるいは投資家にとっての魅力に向ふにつながったと考えておりますし、販路拡大あるいは資金調達の後押しにつながったと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 森山委員。

○委員（森山和博君） ありがとうございます。もちろんLiberawareの自社の努力もある中で、千葉市と一緒にタイアップした好事例と捉えておりますので、ぜひこのような形で千葉市の企業が成長して、全国的また世界的にも通用するような企業を千葉市から発信していただきたいと思っております。

昨今は、中小企業支援として、社会として最低賃金を上げようとされている中で、どうしても中小企業にはもともとの資金源がないため、収益を上げるための何か応援が欲しいということになりますから、設備投資やそのようなことで仕事を効率化することで、もうかる会社をつくっていただきたいと思っておりますので、これは中小企業支援全般でお願いしたいと思っております。

次に、企業立地へ移りたいと思います。

企業立地は、令和6年度も千葉市企業立地促進事業制度を活用した企業立地の実績を高く評価しております。企業立地が好調である中で気になった場所は、例えば、幕張エリアへの取組でしょうか。幕張エリアのオフィスビルに対して、合同内覧会を令和6年10月に開催されております。どのような内容で、反響はどのような結果だったのか、お聞かせいただきたいと思います。

○主査（白鳥 誠君） 企業立地課長。

○企業立地課長 企業立地課でございます。

幕張エリアの7ビルの内覧に123人の参加をいただきました。参加者1人当たり4つ以上のビルを回っていただきまして、ビル1棟当たりですと約65人の来場者となっております。不動

産仲介業者や金融機関のほか物件を探す企業も参加していただきまして、満足であった、やや満足といった声が大多数でございました。

また、参加ビルからも好評の声をいただきしております、ふだん接点のない不動産仲介業者やビルオーナーとのつながりを持てたとの声が上がっておりまます。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 森山委員。

○委員（森山和博君） 幕張エリアのオフィスビルをより多くの方に見ていただきたいと思います。ただ御存じのとおり、幕張エリア自体が大分年数がたっておりますので、オフィスビルもそんなに最新鋭の設備ではないと推測するんですけども、そのような状況でも立地やビルにある企業同士のつながりが有効になれば、選択肢としては可能だと思います。もちろんリニューアルができれば、なおよろしいと思うのですが、なかなかそこまではいかないかもしれませんので、このような取組で、幕張新都心のオフィスビルをたくさん頑張っている企業が集まる場所にしていただきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

次に、観光MICE企画課に行きたいと思います。

観光行事開催の千葉市民花火大会幕張ビーチフェスタについて伺いたいと思います。

まず、千葉市の幕張の浜でやっている花火大会の特色について、お聞かせいただきたいと思います。

○主査（白鳥 誠君） 観光MICE企画課長。

○観光MICE企画課長 観光MICE企画課でございます。

何点かございまして、1つは打ち上げ総数が国内最大級の2万発以上、そのうちの約3,000発につきましては、いわゆる日本一の長さを誇る人工海浜のビーチを生かして会場の幕張の浜から海上に向けた海上花火を打ち上げているところと、最後ですが、砂浜に車椅子の観覧席を設けているところが、ほかにない特色と考えております。

○主査（白鳥 誠君） 森山委員。

○委員（森山和博君） 幕張のイベントの中に脱炭素に向けた取組についても取り組まれていると伺いましたが、どのような内容か、お知らせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 観光MICE企画課長。

○観光MICE企画課長 観光MICE企画課です。

使用する電力相当のグリーン電力証書を購入しまして、実質再生可能エネルギーで開催をしている状況でございます。

○主査（白鳥 誠君） 森山委員。

○委員（森山和博君） 様々な取組を行っていることは分かりました。花火大会が幕張の浜に移動してもう大分たちますが、市民の方からの期待の声など、その対応について今後の方向性などを含めてお知らせいただけませんか。

○主査（白鳥 誠君） 観光MICE企画課長。

○観光MICE企画課長 平成24年から、現在の会場であります海浜幕張公園で開催をしております。無料観覧席について多くの市民の皆様から応募をいただくとともに、有料観覧席についても完売している状況にございます。また開催後は、関係者からの細かい部分についての改善点を抽出しまして次の開催に反映することを、過去から実施してきている状況でございます。

今後多くの市民の皆様が観覧できるよう、観覧席の見直しや会場での観覧がかなわなかつた方々に向けてテレビ放送などを行い、多くの市民の皆様の期待にしっかりと応えられるように改善に努めたいと考えております。

○主査（白鳥 誠君） 森山委員。

○委員（森山和博君） よろしくお願ひします。また、今年、花火大会での花火の火災事故が他都市で散見されております。本市の安全対策など今後の対策を確認したいと思います。お聞かせください。

○主査（白鳥 誠君） 観光MICE企画課長。

○観光MICE企画課長 観光MICE企画課です。

今年度、横浜市、淡路市などで花火大会が打ち上げ中の火災トラブルで中止になったことを承知しております。幕張ビーチ花火フェスタでは、特に海辺での開催となりますので開催当日は中止基準となる風速10メートルが継続している状況にあるかどうかを常に把握しまして、いわゆる関係機関と情報を共有してございます。引き続き、次年度以降の開催に向けて、他市の事故原因などを共有するなどした上で関係機関と安心・安全な花火大会に向けてしっかりと準備していきたいと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 森山委員。

○委員（森山和博君） 安全対策をしっかりと取っていただくよう求めたいと思いますので、よろしくお願ひします。

次に、公営事業事務所に移りたいと思います。

こちらは、令和6年度の取組の中にはPIST6夏あそび2024など、競輪以外でも地域に還元する取組をなさっているとは思っておりましたが、先の代表質疑で指摘させていただいたように公営事業事務所の経営改善は必要だと思います。

1つに250競走の事業収入を改善すること、2つに自転車スポーツ振興の取組の強化を求めることがありますので、よろしくお願ひいたします。

市場運営に関しても意見でございます。こちらも現場を確認させていただいて、改革を進められているのは認識しております。時代のニーズにしっかりと合わせた施設にしていかなければいけないと思いますので、市民から求められる施設となるように、引き続き取組を進めていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

次に、農政に移ります。

農政部は、最初に食のブランド千の推進ですが、これまでの議会の質問等々でも2020年に立ち上げた千葉市の食のブランド、千葉の漢字の千を旗印に商品の認定、販路の促進の取組をなさっていることは認識しておりますし、応援していきたいとも考えています。

しかし、なかなか市民が誇るブランディングまでに至っていないことや、千葉市に訪れられたときにお土産として千を買うネームバリューまでには至っていないので、この辺が課題だと思います。

令和6年度の食のブランド千の取扱い、取組、この辺の全体的な評価と今後の方向性を確認したいと思いますので、お聞かせいただきたいと思います。

○主査（白鳥 誠君） 農政課長。

○農政課長 農政課でございます。

食のブランド千の推進で、令和6年度の取組に関しましては成果説明書に記載のとおりなんですけれども、認定制度の展開といたしまして、新たな認定品とサービスを13件認定しております。

また、販路の拡大の支援といたしまして、認定品販売会の実施あるいは事業者と小売店、流通業者等をつなげるマッチングなどを行っております。また、ブランドの認知度向上を目指しまして、ブランドのプロモーションについてはウェブでの情報発信や広報物の制作などを行っております。

また、（2）ですけれども、食に近い方にいかに訴えかけていくかの視点で、料理教室などを活用したプロモーションに力を入れてまして、市長が出演するオンラインの料理教室やクッキングスタジオにおきまして対面型の料理教室を開いたり、あるいは認定証授与式で料理に関するワークショップなどを開催するなど認知度の向上に取り組んでいるところです。

今後、市内だけではなくて、やはり首都圏に向けた戦略で、昨年度は錦糸町や新宿で販売会、催物を行ったり、あるいは都内に出店する小売店の事業者と認定者との商談会を実施したりしてマッチングを図る、常設的に小売店の販売店で置いていただけるように、そのような事業者と認定者のマッチングを図るような取組を行っております。

まだまだ認知度が不足しておりますので、引き続き認知度等の向上を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 森山委員。

○委員（森山和博君） 一つの提案なんですけれども、例えば、今そごう千葉店に常設のスペースをつくってくださっているんですが、非常にその周辺には強いブランド力を持っている諸国銘菓の中に我々の千が並んでいるので、どうしてもそこは差別化が非常に難しいと思いました。ですからＪＲ千葉駅のコンコースなど上へ出てきていただいて、千だけのフェアのようなことをなさったほうがいいのかなと思います。

また、都内へ出られることに関しては非常に有効だと思います。千葉の千ですから、非常に千葉に注目が集まるのではないかと思いますので、取組を強化していただきたいと思います。

次に行きたいと思います。

次は、農業振興の拠点となっております農政センターの取組について、令和6年度はどのようなところに注力なさったのか、お聞かせいただきたいと思います。

○主査（白鳥 誠君） 農政センター所長。

○農政センター所長（農業経営支援課長事務取扱） 農政センターの圓城寺です。

農政センターにつきましては、リニューアルプランを策定しまして施設等の改修等を進めているんですけれども、特に令和6年度につきましては燃油削減の実証実験でトマトの実証実験を進めました。

今、まさに取りまとめ期間中なんですけれども、収量につきましては一定の収穫量を得まして、燃油削減につきましても一定の効果があったと捉えておりまして、今、その取りまとめをしましてモデルを農家に普及しようと考えております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 森山委員。

○委員（森山和博君） 農政センターは何度か視察をさせていただきました。トマトの取組を進められていること、またそれがしっかり形となって、農家がその取組を理解していただいて広めていただくことまで、きちんとやっていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

農政センターにおける農業技師の計画的な増員を求めてきました。しっかりとそれに応えていただいて、視察に行かせていただいたときも新たな方も着任なさっておりました。そのような農業技師の能力をよく活用いただいて、地域の農業者に知見をしっかり広め、勘どころなどそのようなもので農業をする時代ではなくなってきたので、農政センターがきちんとしたデータに裏づいた農業を広めていただくように、しかし偉そうに言うとまた難しいので、上手にお伝えいただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

○主査（白鳥 誠君） ありがとうございました。

ほかにございますか。櫻井委員。

○委員（櫻井 崇君） 一括で。

ざっくり質問させていただきますけれども、物価高騰の経済対策ですけれども、今回が第3回目ということで、1回、2回、3回と推移で見て、どのような効果があったのかを教えていただきたいと思います。

それから、この事業は委託していると思うんですが、委託業者の内容についても教えていただきたいと思います。

それから、企業立地の部分ですけれども、私は企業立地の促進が千葉市の経済対策として一丁目一番地的な地位があると思っているんですが、企業立地とそれから企業立地促進融資制度などについての推移と今後の展望を教えていただきたいと思います。

次は、労働対策の部分で、人材確保のための資格取得支援の主な資格と、リスクリソース支援との違いについて伺いたいと思います。

次は、奨学金サポートですけれども、実績と実態、また制度の内容を教えてください。

それから交付1件とありますが、どのような要件だったのか、制度の効果は個人情報に該当しない範囲で教えていただきたいと思います。また、奨学金サポートについては今後拡大していくのか。

次は、産業振興財團関係の経費で、产学研連携の7件はどこの大学と共同したのか、その成果物は何か。

創業支援については、創業や中小企業への支援は必須のことだと思っておるんですけども、雇用への補助や物価高、物価高騰支援策など評価するものであって、ただし創業については成果がいま一つ分からないので、それについて御説明していただきたいと思います。

それから、観光の部分になると思うんですけども、千葉市はいろいろなMICEなどが来てもそこにお金を落としていかない、宿泊などもみんな東京に行ってしまうということで、その中で本市の展開と今後の対策があれば教えてください。

それから農政の部分で、食のブランド千の推進ですけれども、農業はどんどん頑張ってやっていただきたいと思っているのですが、例えば、ブランディングについて、これはどこか外部

に外注したりなどをして取り入れているのか、それとも課内、局内だけで考えられているのです。前の委員会でも平野レミさんを取り入れた島根県邑南町について言及させていただきましたけれども、その辺についてどのような見解をお持ちか。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 産業支援課長。

○産業支援課長 産業支援課でございます。

まず物価高騰対策の支援金についてでございますが、第1弾、第2弾、第3弾とあります。これまで第1弾が9,408件の給付、第2弾が8,868件の給付となっております。第3弾に関しましては今年度行っておりまして、まだ審査中でございますが、申請自体は8,969件頂いております。

活用された方からのお声としては、非常にありがたかったと、役に立ったと御意見をいただいております。役に立った、どちらかと言えば役に立ったとの御意見が第2弾で96%ほどございました。そのほか、第1弾から第2弾に申請書類などの簡素化をしましたので、こうした簡素化などについてもありがたかったとお声をいただいております。

また外注費、事務局委託でございますが、こちら第1弾、第2弾、公募型プロポーザルを行いまして、JTBと契約をしております。第1弾の委託料が6,789万7,000円、第2弾が6,396万9,000円となっております。第3弾が6,756万9,000円となってございます。

また、産業振興財團関係経費の中の产学連携の7件はどこの大学と共同したのかでございますが、千葉大学、東京理科大学などの工学系や医療看護系の学部、大学院等々、新商品の製品化などに向けた共同研究を行ったものでございます。研究結果を基に大学等と共同研究を行った事業者は製品化に向けた準備など、さらなる研究開発等を行っているところです。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 企業立地課長。

○企業立地課長 企業立地促進融資制度のこれまでの推移ですけれども、過去5年間での推移ですが、令和2年の実行件数で2件、令和3年で2件、令和4年で3件、令和5年で1件、令和6年の12件となっております。今後の利用の展望ですけれども、昨今の市場金利の上昇トレンドから低利、固定、長期の特徴の同制度の魅力が高まっている中で利用の件数が増えていく可能性があると捉えております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 資格取得支援とリスクリギング支援の違いにつきましては、まず資格取得支援の主な資格につきましては、昨年の36件のうち大型自動車、中型自動車のそれぞれ一種ですけれども、そちらの免許取得者が23人、あと電気工事士の資格取得が5人と、一番この辺りが多くなっている状況でございます。

資格取得支援につきましては、有資格者の確保が困難な業種、運輸業や建設業などの人材確保支援を目的としておりまして、リスクリギング支援につきましては、業種を問わず従業員の育成を目的とした研修など、能力開発による生産性向上支援を目的に行っているものという違いがございます。

それから、奨学金返還サポートの実績につきましては、昨年度1人に対して10万5,000円の

支援金を交付してございますが、こちら情報通信の関係の業種に就職した方への交付となっておりまして、令和7年度は対象者3人に交付をする予定となっております。

また、奨学金返還サポートの制度の内容とどのような要件であったかでございますが、貸与型の奨学金を利用して、ポリテクカレッジ千葉等の産業人材育成施設を卒業した後に市内企業に就職1年後から3年間にわたり交付をする制度になっております。

制度の効果としましては、在学中に交付の候補者に申請をいただく制度となっておりますので、就職の際に企業の選択のときに意識づけがある程度図られるのではないかと推測をしてございます。

今後、拡大していくのかにつきましては、制度開始時、対象校はポリテクカレッジ千葉の1校のみでしたが、令和6年度より関東職業能力開発大学校と職業能力開発総合大学校という同種の大学校があるのですが、そちらの2校を追加したところでございまして当面は拡大の予定はありません。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 農政課長。

○農政課長 農政課でございます。

食のブランド千のブランディングに関してお答えいたします。

まず、このブランドの立ち上げの際にブランド戦略を策定しているんですけれども、そのときには民間の事業者や関連団体、関係団体の意見を伺いながら連携して戦略を立てております。

その後に関しましては、事務局の運営や販路の拡大支援、それからプロモーションの活動などは委託しております、外部の知見を生かしております。

また、今年度につきましてはSNSを戦略的に活用しまして、さらなるヒット商品をつくり上げるためにデジタルマーケティングに取り組んでおりまして、こちらも新たに外部に委託したところでございます。今後も引き続き、府内だけではなく外部の専門的な知見を生かしながら進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 観光MICE企画課長。

○観光MICE企画課長 観光MICE企画課でございます。

いわゆる本市観光の現状と課題でございますけれども、まずは市内宿泊者数についてはコロナ禍前と同程度まで戻ってきていますが、外国人に限りますと4割程度で、そちらがまだ戻り切っていない状況でございます。

それから市内エリアですけれども、やはり幕張新都心エリアに集中をしておりまして、その辺のエリアに宿泊者数や観光呼び込み客数の偏りがあります。

それから最後ですけれども、国際会議の開催件数については、やはり東京都、横浜市と比べるとコロナ禍前までしっかりと回復していない状況があります。そういうことを踏まえまして、まずは千葉市としての観光の魅力をしっかりと訴えかけた上で、回遊性の向上、それから幕張メッセを使っていただく国際会議の誘致を関係機関としっかりと連携して取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） スタートアップ支援室長。

○スタートアップ支援室長　スタートアップ支援室長でございます。

市内の創業の成果について御指摘いただきましたので、お答えさせていただきます。

私ども本市のほうでは、いわゆるロールモデルとなる創業者の育成を目的としたアクセラレーションプログラム事業を行っておりまして、採択者のうち大きく資金調達を果たされてスケールアップをされた事業者を紹介させていただきたいと思っています。

まずは先ほどもお話が出たんですけれども LiberaWare、これは小さい空間ドローンの製造販売等をされているところですけれども、ここが令和6年7月にグロース市場に上場され、資金調達を果たされてスケールアップをされていると。

もう一社、リンクメッドは、放射線医薬品による革新的ながん治療法の開発をされたところですが、こちらも令和5年12月に大きな資金調達をされまして、翌令和6年2月には治療薬の生産工場の新設を発表されました。この辺りが一つ支援の成果になると考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥　誠君）　櫻井委員。

○委員（櫻井　崇君）　ゴールデンルートなどある中で、千葉市に宿泊するのはなかなか難しいと思いますけれども、かつてコミックマーケット幕張メッセでやったように、幕張メッセなど千葉市独自のもの、マニア好きでもいいので、そういうものが入ってくるような考え方などを推進していっていただきたいと思います。

それから農業の部分で、今、外部の知見を生かしてデジタルマーケティングなどをやっていらっしゃるとのことだったんですけども、それはやはり競争の中で外部に委託しているとは思うんですが、実際の具体的な例があれば資料として提示していただければと思います。今、外部の知見を生かしてブランディングをしていることでウェブやSNSなど、そういうものについて具体的にどういったことをやっているかです。

以上です。

○主査（白鳥　誠君）　よろしいですか。農政課長。

○農政課長　具体的にどのようなブランディングを行っているか、後ほど資料を御提供させていただきます。よろしくお願いします。

○主査（白鳥　誠君）　ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。三須委員。

○委員（三須和夫君）　一括で。

今、農家を継ぐ人がいないということだけれども、農家を継ごうという若い人たちがほとんどいなくなってしまっている。昨年度は、農業後継者に対して市はどんな支援を行ってきたのか、お尋ねします。

○主査（白鳥　誠君）　農政部長。

○農政部長（農業委員会事務局長併任）　若い農業後継者につきましては、スムーズな農業継承や継承後の経営発展が課題であると考えております。本市として、農業継承者経営発展支援事業によりまして、令和6年度の決算としまして2件の農業後継者の方に対して研修参加費や業務の効率化を図る省力化機械の導入について支援をしたところです。また、本市独自の補助メニューとして、未来の千葉市農業創造事業におきましても、経営規模に合わせて補助メニューを分けるなど、農業後継者が使いやすい補助事業に刷新しております、令和6年度につき

ましては、小型・大型機械等で8件の40代以下の農業者を支援したところでございます。

これらは市単独事業に加えまして、活用可能な国の制度等もありますことから、最大限活用して農業後継者の支援に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 三須委員。

○委員（三須和夫君） 後継者がいないということで、今、私ども緑区の中でも農家をやっている人は皆我々より、もう10個ぐらい先輩です。本当に農業者が農業を続けていること自体が大変な状況ですけれども、このままでは地域の農業者が数年でほとんどいなくなってしまうのではないかと危機を感じています。若者が農業を職業として選んでもらえるように、農業の魅力の発信と、農政部として取り組んでいただきたいと思います。

それから続きまして、労働対策について質問いたします。

資格取得支援について、令和6年度に建設業を追加した理由は何でしょうか。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 雇用推進課でございます。

令和5年度に行いました企業のニーズ調査を踏まえまして、時間外労働の上限規制の適応に伴う2024年問題をはじめ、有資格者の確保が困難な状況が続く業種として令和6年度から建設業を追加いたしました。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 三須委員。

○委員（三須和夫君） 労働対策について建設業からの申請状況はどうなっていますか。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 昨年度につきましては、第一種電気工事士の申請が1件、第二種電気工事士が4件、一級土木施工管理技師が3件の計8件の申請がございました。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 三須委員。

○委員（三須和夫君） 分かりました。ありがとうございました。

○主査（白鳥 誠君） ほかにございますか。蛭田委員。

○委員（蛭田浩文君） よろしくお願ひします。一括で。

農業経営支援課の有害鳥獣対策の推進についてお伺いします。

いろいろ対策を講じて、協議会が地域の農業者と一緒にになって対策を支援してきたと書いています。また、モデル地区の事業の拡大や連絡会議の設置、連携強化、それからイノシシの集中捕獲事業といろいろ取り組んできていると思います。そういう中でもやはり被害は出ていると思っております。

そこで、農産物の被害状況をお伺いするのが1点。それから、このような対策をしてきてるので、その効果についてお伺いするのが2点目。それから3点目として、今後の対策についてお伺いしたいと、以上3点お伺いしたいと思います。

○主査（白鳥 誠君） 農政センター所長。

○農政センター所長（農業経営支援課長事務取扱） 農政センターです。

農作物の被害状況ですけれども、令和4年度につきましては約1,177万円、令和5年度につ

きましては1,238万円、令和6年度につきましては1,050万円の農作物の被害がありました。

これまでの対策効果につきましては、主な対策としましては捕獲と侵入防止を行っております。捕獲につきましては、わなを増設することによりまして出没の多い場所、そして被害が多く発生する時期に合わせまして集中捕獲を実施しております。また、電気柵による侵入防止を図っております。

また、地域ぐるみの取組として地域協議会の設置を支援しております。こちらにつきましては、緑区、若葉区を中心に現在11地区に設置されているところです。これらの取組によりまして、農作物の被害の低減に一定の効果が上がっていると認識しております。

今後の対策につきましては、農作物被害における鳥獣被害対策につきましては地域ぐるみで連携して取り組むことで、さらに効果を上げることができると考えておりまことから、本市では、自治会単位で地域協議会の設立を進めております。今後さらに地域間の連携、それから地域の方々と獣友会の連携強化が重要であると考えております。市、獣友会と地域協議会の主要メンバーによる連携会議を通じまして連携した捕獲体制について、今後検討を進めていく予定になっております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君）　蛭田委員。

○委員（蛭田浩文君）　ありがとうございました。いろいろ取り組んでいる中でも1,000万円を超える被害が出ていることは理解をいたしました。捕獲と侵入防止も11か所設置して、地域協議会も設置して取り組んでいることも理解をいたしました。獣友会と地域協議会の主要メンバーによる連携会議によって捕獲体制を検討していくことも分かりました。

いろいろ対策をしているけれどもゼロまではいかない、被害がゼロにならないなど、要はイノシシがいなくなるところまでいっていない。これはなかなか難しいと思いますけれども、多分千葉市だけでやっているのも限界がある気もします。当然、千葉市以外の隣の市町村からもそういう侵入が来ていることもあると思いますので、千葉市内の農業者との対策連絡会議など、また隣の市町村とも連携を取りながら有害鳥獣をいかに減らしていくかを、少しでもそのような対策会議ができて、同じ方向を向いて被害がなくなる、または有害鳥獣がいなくなるような取組をしていただきたいとだけお願いしたいと思います。

それから質問はしませんけれども、250競走について、財政改善に向けていろいろな対策をやっていると思います。先日の新聞でも、半年間少し休んでとありましたが、ぜひ、新しく造った競輪場を有効活用するためにも活性化を進めていただきたいと思います。昔は昭和40年代、50年代は競輪様様の時代もあったと聞いておりますので、そこまでとは言いませんけれども、ぜひ、競輪場を活性化していただきたいと思います。

それから地方卸売市場、いろいろ取り組んでいるのは分かりました。先ほど森山委員からもありましたけれども、市民のニーズに応えられるように対応をこれから取り組んでいただきたいと思います。特に、再整備に向けていろいろ検討を進めていると聞いておりますので、市場が市民の身近な場所になる、そのような感じで新しいリニューアルする卸売市場を目指して取り組んでいただきたい、これは意見でございます。

私からは以上です。

○主査（白鳥 誠君）　ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 一問一答で。

まず、観光行事開催に関してですけれども、千葉湊大漁まつり中止で456万円が経費負担と説明がありましたが、千葉湊大漁まつりが中止にならなかつた場合、開催されていた場合は費用負担はどれぐらいになっていたのか、教えていただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 観光MICE企画課長。

○観光MICE企画課長 観光MICE企画課です。

当日必要なごみ処理費用等がかかったと考えていますので、その部分が大体43万円程度と考えております。合計約500万円の費用負担になったと考えております。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 事前の準備にかなり費用が必要で、中止になるとその経費がもったいないのはあるんですけども、祭り自体が過去10年で中止になった回数は分かりますか。

○主査（白鳥 誠君） 観光MICE企画課長。

○観光MICE企画課長 観光MICE企画課です。

過去10年ですけれども、恐らくないと思います。雨天中止は今回が初、という形です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 意味天候が安定している時期にやっていると思うんですが、このようなこともあるのは正直しようがない部分はあると思います。

あと幕張ビーチ花火フェスタについても、これも中止になつたら費用負担がかかると思うんですけども、幕張ビーチ花火フェスタの場合は事前の準備だけでどのくらい費用負担がかかるのかと、これも過去10年中止になったことはあるのか、分かれば教えていただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 観光MICE企画課長。

○観光MICE企画課長 コロナで過去2回ほど中止をしております。人数がたくさん集まりますので、コロナ禍のときには中止をしたところがあります。それから基本的には興行中止保険に入りますので、ほとんど事前の準備なんです。ですので、その辺でカバーできるものと考えております。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 保険に入っていることで、こちらは花火大会に関しては中止になつても費用負担ほぼないということで、違いますか。

○主査（白鳥 誠君） 観光MICE企画課長。

○観光MICE企画課長 費用負担がないのではなくて、いわゆる同程度の金額がかかると思っています。今、花火大会については4,000万円ほど市の負担金の形ですけれども、協賛金などを集めていますので、その部分にいわゆる協賛金、お返しする形になると思います。ですので、4,000万円ぐらいの市の負担は変わらないと考えております。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 分かりました。コロナ以外で中止がないと。天候だったり風の影響で開催時期に関しては今の時期で問題ないと思いましたので、開催するに当たってはしっかりと、経費もかかっているのもあると思うので、そこは市民の方が満足していただけるようなイベントにしていただければと思います。

続きまして、観光プロモーションの推進に関してですけれども、インバウンドの需要を取り込むためにターゲットに合わせた海外プロモーションなども行ったとのことですけれども、ターゲット設定は具体的にどのような設定にされているのか、お聞かせください。

○主査（白鳥 誠君） 観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長 観光プロモーション課です。

本市のインバウンド観光振興の方向を定めましたインバウンド集客プロモーションにおきまして、訪日旅行客が多くて、あとショッピング目的の来訪が多い中国や台湾をまずターゲットにしております。

また、コト、体験を重視して長く滞在する傾向がありますアメリカやオーストラリアもターゲットしております。さらにマレーシアなども含めて重点的に取り組んでおります。近年では県が展開します台湾、香港、マレーシアなどのターゲットにしたプロモーションにおいて、本市も多様な宿泊施設を有しておりますので、県内観光の拠点として県と連携して取り組んでおります。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 中国、台湾はショッピング目的が多いとのことですですが、これは東京だとショッピング目的で結構大量買いするイメージがあるんですけれども、千葉市に来てショッピング目的で大量買いするような現象はあるのでしょうか。

○主査（白鳥 誠君） 観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長 ショッピングを目的に千葉市にというのは把握できていないのですが、実際に市内にもドン・キホーテなどで買物をされている海外の方はいらっしゃいます。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） ショッピング目的が中国、台湾で、コト、体験志向がアメリカ、オーストラリア、これが長期滞在型なので、どちらかというと千葉市の場合はそちらの体験型の部分を重視したほうがいいと思います。

例えば、今、外国人はコロナ前の4割ぐらいしかまだ回復していないということですけれども、チバノサトやグリーンツーリズム、アニメツーリズムなどもあればですが、そういったPRで特にアメリカやオーストラリアなど、ほかの国でも長期滞在型の体験志向の方をインバウンド集客のメインターゲットにしてもいいと思ったんですけれども、その辺りの海外プロモーションとグリーンツーリズムなどアニメツーリズムの連携のようなことはされているんでしょうか。

○主査（白鳥 誠君） 観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長 ターゲットに合わせたプロモーションになるんですが、まずコト、体験を重視して来られるアメリカやオーストラリアの方の場合は、もう事前に何週間、何か月の形で1年ぐらい前から予約をしていらっしゃる方に対するプロモーションになります。

それに対してショッピングや、そもそも旅行、日本に興味のある方がいらっしゃる中国や台湾の場合は、何日か何か月か前から予定を立てていらっしゃいますので、その方たちに対してプロモーションを実際にしていくことになります。アニメツーリズムなど、そういったコンテンツのそもそも強いものを組み合わせて、今後機会を通して実施していければと考えております。

す。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 海外の旅行雑誌などに載っていると、東京に来ても千葉市に1泊、日帰りでも来ることはあると思ったので、そういう部分、雑誌の掲載などを検討いただけるといいと思いました。それからマレーシアもターゲットのことなんですかけれども、東南アジアでなぜマレーシアだけをターゲットを選定しているのかはなぜですか。

○主査（白鳥 誠君） 観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長 観光プロモーション課です。

マレーシアをターゲットにしておりるのは、東南アジアの中でもビザの要件やLCCの就航によりまして、東南アジア関係からいらっしゃる、その中でもムスリムの旅行者が増加する想定がありまして、その中でマレーシア、インドネシア、そういう旅行客をターゲットにして設定しております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） ムスリムの旅行者が増えるのは、千葉市がムスリム用に食事などを合わせたり、そのような取組をされているからですか。

○主査（白鳥 誠君） 観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長 そもそもムスリムの人口自体が世界の人口でかなり多いとのことでありまして、ムスリム旅行客について、安心して飲食、宿泊、美容等のサービスが受けられるような店舗を掲載してプロモーションをしております。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 分かりました。人口が多いと言うと、インドやイスラム教でいうとインドネシアなどいろいろあると思うので、東南アジアやインドも含めたアジア圏の観光客の誘致も積極的に行っていただければと思います。

それから訪日外国人旅行者向けのSNSの運営及び情報発信で2媒体を活用していると記載があるんですけれども、どのような媒体なのか、またインプレッションなどの反響はどのくらいあるのかお聞かせください。

○主査（白鳥 誠君） 観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長 外国人の利用の多いフェイスブックとインスタグラムを活用しております。フェイスブックはフォロワーが6万109人で、本市の魅力やイベント情報を発信しております。千葉市が運営しております。インスタグラムはフォロワー数が2,877人でグルメ情報を中心に発信しております、こちらは観光協会が運用しております。

インプレッション数、閲覧数につきましてはフェイスブックで多いものとしては桜の開花スポットが4万9,000回、Yoha Sが4万3,000回、イオンモールが2万5,000回、ブルーベリー狩りが2万4,000回、そのほか、例えば、ワールドD Jフェスティバルなど幕張メッセでのイベントも閲覧数が多くて、共感や指示を示すいいねも多いときで700件程度ついております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君）　それは、言語は英語で記載されているものですか。

○主査（白鳥　誠君）　観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長　言語は英語と繁体字と日本語、3か国語をフェイスブックで同じ画面に入れております。

○主査（白鳥　誠君）　山崎委員。

○委員（山崎真彦君）　フォロワーでいうとフェイスブックは千葉市が管理していて6万人ほどで、インスタグラムが観光協会が運用を行っていて2,800人ほど、インスタグラムも千葉市がやったほうがいいと思えたりするんですけども、その辺りは千葉市がやらない理由、観光協会に委託している理由は何でしょうか。

○主査（白鳥　誠君）　観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長　フェイスブックですが、これは市が運営しております平成28年、9年ぐらいから始めております。インスタグラムのほうは令和5年からスタートして、主に食べ物やお店の環境をつぶやいておりまして、主に観光協会の会員のお店など、そのようなところを中心に投稿する関係から観光協会で発信をしている状況でございます。

○主査（白鳥　誠君）　山崎委員。

○委員（山崎真彦君）　役割分担が違うということだと思うんですけども、もう少しフォロワーが増えるような形で千葉市もノウハウなども提供してあげたりは必要かと思います。

あと、観光系では最後ですけれども、台湾やムスリム向けのプロモーションで現地の旅行会社の商談会への参加もしているとのことなんですが、こちらは目に見える成果は上げられているのでしょうか。

○主査（白鳥　誠君）　観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長　成果ですが、現地での商談会において市内宿泊及び観光施設の利用条件に信金を支出する制度、本市のインバウンド団体旅行支援補助金制度を紹介しております、その結果、商談を行った事業者がこの制度を活用してツアーを実際に実施しております。

そのほか現地の旅行会社との信頼関係の構築やネットワーク拡大、あと商品企画のヒアリングなど基盤づくりを進めております。また、国ごとの文化的な理解や現地ニーズの把握が不可欠であり、商談会を通じてこれらを深めていくこともできております。得られた情報をフィードバックするなど、誘客につなげていけるようなプロモーション強化に努めてまいります。

以上です。

○主査（白鳥　誠君）　山崎委員。

○委員（山崎真彦君）　実際にツアーを実施した事業者もあり、このまま続けていただければと思うんですけども、台湾やマレーシア以外でもうまくいったら拡大するような方針なのでしょうか。

○主査（白鳥　誠君）　観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長　今のところ台湾や中国を中心にPRをしておりますが、団体旅行客と個人旅行客で国によってツアーに訪れる方が違いますので、実際にいらっしゃる方のニーズに合わせてPRをしていきたいと考えております。

以上です。

○主査（白鳥　誠君）　山崎委員。

○委員（山崎真彦君）　海外旅行会社のプランに入っていれば安定的に集客が見込めると思うので、これはぜひ拡大していただければと思います。

先ほども少し話した、デジタルも含めてなんですかけれども、海外旅行雑誌への掲載が一番効果的で、そういった海外雑誌の会社にメール営業など、アメリカは遠いので実際に行かないにしても、メールなどのオンラインでの営業は何かされているのか、今後する方針があるのかお聞かせください。

○主査（白鳥　誠君）　観光プロモーション課長。

○観光プロモーション課長　雑誌への掲載ですが、海外の方が事前に日本の情報を知ることになる雑誌について、よく見られている雑誌と言われている『a t t . J A P A N』に現在掲載をお願いして実施しております、フリーマガジンや、そのウェブサイト、そういったところで今掲載をしてございます。

以上です。

○主査（白鳥　誠君）　山崎委員。

○委員（山崎真彦君）　もう既に取り組み始めているところで、そういった雑誌を増やしていただければ千葉市への集客増えると思いますので、ぜひよろしくお願ひします。

続きまして、競輪に関してですけれども、開催状況を見たときに大体1回当たり1,000人から2,000人の入場者で、第5回と第10回が5,000人以上入場しているようですけれども、ただ売上げがそこに比例していない、ほぼ同じである理由をお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥　誠君）　公営事業事務所長。

○公営事業事務所長　公営事業事務所でございます。

現在競輪の売上げはほとんどインターネットの売上げになります。また、250競走につきましては全てインターネット発売になりますので、入場者と競輪売上げが比例しない状況が見られることになります。

以上です。

○主査（白鳥　誠君）　山崎委員。

○委員（山崎真彦君）　インターネット販売が多いと。実際に会場に足を運んでいただく方も重要だと思うので、ぜひ入場者の部分もしっかりと増やしていただけるような取組はお願ひしたいと思います。

今、開催は休止になっているんですけども、競輪事業自体に一般会計の繰出金が1,632万円あるとのことですが、過去3年の推移をお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥　誠君）　公営事業事務所長。

○公営事業事務所長　公営事業事務所です。

令和3年度が731万円、令和4年度が1,562万円、令和5年度が1,464万円を一般会計に繰り出しております。

以上です。

○主査（白鳥　誠君）　山崎委員。

○委員（山崎真彦君）　100日以上開催すると1,700万円が事業者から入金があるということですけれども、今まで開催100日はいっていないですし、今年は、今、休止しているのでそういう収入を見込めないと思うんですけども、開催が休止していることに対して事業者に違

約金等の負担義務、そういうものはあるんでしょうか。

○主査（白鳥 誠君） 公営事業事務所長。

○公営事業事務所長 公営事業事務所でございます。

今回の休止の決定でございますが、これは市の行為であることと、そもそも競輪日程が決定する前に行っておりまますので、事業者に対する違約金は発生いたしません。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 私の認識だと、事業者が開催するかどうかを判断すると思っていたんですが、そこは千葉市が休止の判断をして、繰出金も入ってこない状況になっていると思うんですけれども、休止の判断はどういった理由から千葉市が提案されたのでしょうか。

○主査（白鳥 誠君） 公営事業事務所長。

○公営事業事務所長 公営事業事務所でございます。

今回の休止の判断でございますが、これは令和3年度の開幕以降でございますが、競輪事業特別会計の収支差を補填するために、マイナスになった場合には収支差を補填するために事業者から千葉市に対して収益保証が行われておりますが、これが開幕以降で約30億円に上っていることで、事業者の今後の安定的な競輪開催を想定したときに、今、開催形態を見直しをしない場合、事業者の負担が大きくなってしまうことを基に、今回休止の判断をいたしたものでございます。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 細かいところが聞こえなかったんですけども、事業者の千葉市に対する費用負担は幾らと今おっしゃっていましたか。

○主査（白鳥 誠君） 公営事業事務所長。

○公営事業事務所長 令和3年度の開幕以降、令和6年度までで事業者から千葉市に対して競輪特別会計の収支差を埋める収益補償額が約30億円になっております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） そうすると千葉市は30億円入金してもらえる権利はあるけれども、入金してもらうための開催の売上げがない、実際に入金はされていないからということですか。入金自体はされているけれども、休止をお願いしていると。

○主査（白鳥 誠君） 公営事業事務所長。

○公営事業事務所長 今年度の場合ですと上期でも、1回の開催が2日制でやっておりますが、これでもろもろの経費を差し引きますと単純に1,200万円から1,300万円ぐらいの赤字が出てしまうということで、開催を重ねますと、その分は赤字といいますか収支差が発生する構造でございます。最終的にこれがプラスになった場合には事業者に対して私どもが委託料を収める形になりますし、収支差がマイナスになった場合には収益保証として私どもが頂く構造でございます。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） だから千葉市が休止するのは一定のメリット、どちらにしてももらえるけれども、事業者のことを考えたら今は休止して見直しをしたほうがいいとの判断ですか。

○主査（白鳥 誠君） 公営事業事務所長。

○公営事業事務所長 お見込みのとおりでございまして、どちらにしましても千葉市として何か財政上痛むところはないのですが、今回開催を休止することで1開催当たりの収支差が発生しなくなる分、事業者の経営環境に与えるダメージがなくなることでの今回の休止判断でございます。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 分かりました。事業者も継続的に運営できないと最終的に競輪自体がなくなってしまうと思うので、千葉市は提案したこと自体には納得しました。今後しっかりと収益が見込めるような運営体制に、千葉市も協力して一緒にやっていただければと思います。

次に、市場運営に関してですが、卸売市場です。市場運営において取扱数量や取扱金額の増減傾向は年々どうなっているのか、傾向をお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 地方卸売市場長。

○経済部参事（地方卸売市場長事務取扱） 地方卸売市場でございます。

まず、取扱数量につきましては、人口の減少や市場外の流通の増加、また消費スタイル等の社会構造の変化によりまして全国的に減少傾向にございます。千葉市においても同様の傾向でございまして、年々取扱数量は減少しております。

また取扱金額につきましては、こちらは天候不順や漁獲量の低下に伴う逆に価格の上昇の要素もありますので、近年でいうと取扱金額についてはおおむね横ばいの状況でございます。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） これは全国的にも減少傾向で、しょうがないと思うんですけども、千葉市で独自の工夫は何かありますか。

○主査（白鳥 誠君） 地方卸売市場長。

○経済部参事（地方卸売市場長事務取扱） まず、千葉市場につきましては老朽化が進んでおります。また、温度、衛生管理がやはり不十分で、正直申しますと競争力が高い状態ではありません。ですので、昨年度末に経営戦略を策定しまして市場を再整備する。それによって温度衛生管理の適正化はもちろんですし、加工処理機能や流通機能、この辺を充実させて出荷力を強化していく、それによって取扱数量も増やしていく、そういうことで考えております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） しっかりと今後の戦略を考えて取り組んでいかれている印象を持ったので、ぜひ、その方針で続けていただければと思います。

次に、食のブランド千の推進ですけれども、案件のホームページも見たんですが、認定品を見ると何となく商品は分かるんですけども、食のブランドのホームページのトップ画面に掲載された動画だけを見ると、どのようなブランドなのか想像がつきにくかったんです。

全体的に千ブランドがどのようなブランドか、具体的に何か分かりやすい打ち出し方がもつと必要な印象を受けたんですけども、その辺り、食のブランド、千以外の具体的にイメージ

ができる、そういう伝わりやすい表現は何か持ち合わせていらっしゃるか、お伺いしてもいいですか。

○主査（白鳥 誠君） 農政課長。

○農政課長 農政課でございます。

食のブランド千のプロモーションに関する御質問ですけれども、これまでプロモーションに関しましては市長のトップセールスによります認定証授与式や、認定品を利用した料理教室の開催、それから市内、首都圏も含めまして販売会の開催などに取り組んでおりまして、今年度につきましては贈り物として活用できるようなカタログギフトの作成など、先ほども申し上げたんですけども、SNSなどを戦力的に活用してヒット商品をつくり上げることを目指す、デジタルマーケティングなどに取り組んでおりまして、様々なプロモーションに取り組んでいるところでございます。

今後につきましても、ブランド価値の向上、あるいは認知度のさらなる向上を目指しまして有名コンテンツなどのコラボも含めましてターゲット層に訴求できるように、より効果的なプロモーション手法について検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山委員。

○委員（山崎真彦君） デジタルマーケティングとの言葉がありましたけれども、マーケティング自体は大事だと思うんですが、商品開発といいますか、商品のコンセプトが不明瞭だと伝わりづらい部分があるので、そこと両方、両輪でしっかりと行っていただければとの印象です。だから商品開発自体がいろいろなブランド、千葉市の農家などのブランドを組み合わせたブランドになるのかと思うんですけども、そこが少し分かりづらいのが課題との認識を持っております。

マーケティング、プロモーションに関してなんですが、先ほど有名コンテンツとのコラボの検討も今後あるとの話なんですけれども、例えば、映画の「千と千尋の神隠し」など、千が同じなのでそういう誰でも知っているし、逆に言うと世界どこでも、世界的にも有名なので海外向けのインバウンドにもこれは効果的かと思うんですけども、例えばそのような有名コンテンツなどのキャラクターが食べているようなシーンなどがあると、それはそれでキャッチーとも思いますし、その辺りはぜひ有名コンテンツのコラボも検討いただければと思います。

次、耕作放棄地の再生促進に関してなんですけれども、耕作放棄地の再生に係る経費の助成として4件の実績となっているんですが、具体的にどの地域かお聞かせください。

○主査（白鳥 誠君） 農地活用推進課長。

○農地活用推進課長（農業委員会事務局次長併任） 農地活用推進課です。

令和6年度の実績地域ですが、緑区下大和田町、平山町で約45アール、緑区上大和田町、土気町で約219アール、若葉区下泉町約24アール、若葉区更科町約20アール、合計約3丁分、3ヘクタールの農地が再生されました。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 若葉区と緑区の2つで4個ですけれども、千葉市の耕作放棄地はほかに合わせると、あと何ヘクタールぐらいあるか、お聞かせください。

○主査（白鳥 誠君） 農地活用推進課長。

○農地活用推進課長（農業委員会事務局次長併任） 千葉市の荒廃農地の調査は、農業委員会の農地利用最適化推進員の方が年1回全農地を回って調査をしています。令和6年度の実績でいうと、荒廃農地が670ヘクタールです。

再生可能な1号遊休農地が10.8ヘクタール、そのうちに入っておりまして、大体荒廃農地の9割ぐらいが山林や原野化して再生できないものになっています。なので10.8ヘクタールのうち、今回約3ヘクタールを解消したということになっています。これでよろしいでしょうか。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 約10ヘクタールのうちの、今回3ヘクタールで残り7ヘクタールぐらいあると思うので、今年も来年も引き続き、耕作放棄地をまた再生していただける助成を、ぜひ続けていただければと思います。

次が、有害鳥獣対策の推進について質問したいんですけども、先日環境局の答弁でイノシシの捕獲で箱わななどなかなか捕獲できないと答弁あったんですが、イノシシで箱わな2基と記載があるんですが、これは実際捕獲しにくい箱わなをなぜ設置しているのか、お聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 農政センター所長。

○農政センター所長（農業経営支援課長事務取扱） 農政センターです。

箱わな設置、イノシシにつきましては、箱わなとくくりわなを使って捕獲をしております。箱わなにつきましては餌をまいておびき寄せることが必要になりますので、時間が少しかかりまして、なかなか捕まりづらいと話を聞いております。ですけれども緑区など、そういう地区につきましては、箱わなを中心に設置しまして捕獲を進めているところです。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） できれば捕獲しやすいくくりわなの割合をもう少し増やしていただいたほうがいいと感じたんですけども、アライグマやカラスには箱わなが効果的なのでしょうか。

○主査（白鳥 誠君） 農政センター所長。

○農政センター所長（農業経営支援課長事務取扱） アライグマにつきましては、イノシシよりはもう少し小さい箱わなを使って捕獲をしているところです。アライグマについては、くくりわなは許可にはなっていないので、使えない状況になっています。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 結局どちらでもいいんですけども、捕獲しやすいほうを使っていただきたい。それがくくりわなが捕獲しやすいのであれば、そちらに重点してやったほうがいいとは感じました。

最後に、農業委員会の質問で、農地違反転用防止対策をした26件のうち未是正、是正されていないのが6件ということですけれども、未是正の農地については今後どのような対応を行っていくのかお聞かせください。

○主査（白鳥 誠君） 農地活用推進課長。

○農地活用推進課長（農業委員会事務局次長併任） 農業委員会事務局です。

未是正の農地につきましては農地に復元するよう是正指導を継続していくとともに、指導に

従わないなど悪質な場合は文書による指導、勧告を行い、対応していきます。

○主査（白鳥 誠君） 残り10分です。山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 最後の質問になります。

現在、千葉市全体で未是正の農地は総数で幾つあるのかお聞かせください。

○主査（白鳥 誠君） 農地活用推進課長。

○農地活用推進課長（農業委員会事務局次長併任） 数的に総数ではないのですが、令和2年度から6年度の5年間の未是正農地が31件あります。そのうち現在巡回して是正指導を実施しております。やはり事前に見つけることがすごく大事になってきますので、今後も日頃の農地パトロールにより違反の早期発見及び早期是正に努めてまいりたいと思っています。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 意見、要望ですけれども、こういった未是正の農地が千葉市が知らないところで何かしらに転用されると、住民の方に迷惑になることをやる事業者などがいる可能性も高くなってくると思うので、できれば早期発見で市民の方が教えてくれたもの以外でもなるべく感知できるパトロールなりを、やっていると思うんですけども、引き続き行っていたい、特に若葉区などはいろいろ森林伐採など、こういった未是正の農地の問題で住民の方からの声も上がっているので、特に重点的にパトロールしていただければと思います。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 農政センター所長。

○農政センター所長（農業経営支援課長事務取扱） 農政センターの圓城寺です。

先ほどカラスの捕獲につきまして答弁が漏れていましたので、カラスにつきましては大型の箱わなを使いまして捕獲しております。場所につきましては、花見川区と緑区にそれぞれ1か所ずつ設置して、地域の方々に管理をしていただきながら捕獲をしているところです。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 山崎委員。

○委員（山崎真彦君） ありがとうございました。

○主査（白鳥 誠君） ありがとうございました。

そろそろ休憩にしたいと思うんですけども、残りあと何人ぐらい質問される方はいらっしゃいますでしょうか。3名ですね。分かりました。

では、議事の都合により暫時休憩といたします。13時から再開とさせていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

午後0時2分休憩

午後0時58分開議

○主査（白鳥 誠君） 休憩前に引き続き分科会を開きます。

それでは、御質疑ある方はいらっしゃいますでしょうか。樋澤委員、お願いします。

○委員（樋澤洋平君） すみません、一問一答でお願いをしたいと思います。

もう既にあるる様々な取組の質疑は済んでいますので、かぶらないようにやりたいと思いますが、初めに農政の件から伺いたいと思います。

先ほど来ありました食のブランド千、いろいろな取組が進んできたのは分かりました。確認したかったのは、実際に認定をされた後、いわゆる売上動向として増えているのかどうか。あと同時に販売チャネルといいますか、販路の面でどのような拡大傾向があるのか、その辺についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 農政課長。

○農政課長 農政課でございます。

食のブランド千の売上動向並びに販売拡大について御回答いたします。

まず認定の効果だけとは言い切れないところはあるんですけれども、認定前と認定後の売上げを比較いたしますと、令和5年度に認定されました第4回までの認定品の年間売上額、こちらが令和6年度末で認定前と比べまして約6,500万円程度増加している状況にございます。

また、販路の拡大についてですけれども、現在そごう千葉店の地下食品売場やJ A千葉みらいのしょいか～ご千葉店、それからイオンネクスト株式会社のECサイトでありますグリーンビーンズなどにおきまして認定品を常に御購入いただける環境が整い始めているところでございます。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） 認定前と比べて一定数額が上がっている。1つ確認したかったのが、認定をされたブランドでの販路の面で、いわゆるふるさと納税で展開している農家はいらっしゃるのか、その辺のアプローチを市としてフォローアップできているのか、それについてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 農政課長。

○農政課長 農政課でございます。

ふるさと納税に関しましては、千のブランドとして、ふるさと納税の返礼品として取扱いを行ってもらっているところでございまして、それぞれ各事業者、農業者の方々も個人でやられる方もいらっしゃると聞いております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） できるだけブランド名の認知の面と含めて、いろいろな販路で展開できるように、ぜひ御支援していただきたいと思います。

そのような意味では土気のカラシナは、あれは令和6年度での支援も入っているのですが、具体的な支援額と支援内容、あと売上動向はどうなっているのか。やはり加工ですよね、市内の6次産業化での今後の展開を広げていく必要があるのではないかと思いますが、その見解についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 農政課長。

○農政課長 農政課でございます。

6次産業化商品開発補助の支援内容と支援額等につきましてお答えいたします。

まず、土気カラシナを活用した商品開発におきましては、レシピの開発や試作製造、それか

らパッケージやリーフレットの作成等に係る費用の一部におきまして助成をしております。令和6年度の補助金額は28万6,000円となっております。

今後の展開についてですけれども、昨年度に商品開発を終えたところでして、一部の店舗で販売を開始したところでございまして、まだ売上げの集計等は行っていないんですけれども、今後は食のブランド千の認定につなげるなど、引き続き販路拡大に向けた支援を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 植澤委員。

○委員（植澤洋平君） 約28万円のことでありましたけれども、できるだけメニュー、品種も含めて、やはり落花生など、もっといろいろな加工をしながら展開していくことも必要ではないかと思いますので、ぜひ注力していただきたいと思います。

続いて耕作放棄地の対策について、先ほど来御議論ありましたので私から確認したいのは、毎年どれだけ耕作放棄地の面積が増えているのかと。新規就農者にこういった耕作放棄地の部分を融通していく、支援をしていく必要があるんだろうと思うのですが、その辺の具体的な取組についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 農地活用推進課長。

○農地活用推進課長（農業委員会事務局次長併任） 農地活用推進課です。

まず荒廃農地の推移ですけれども、令和4年度が751ヘクタール、令和5年度が767ヘクタール、令和6年度が670ヘクタールとなっています。先ほど少しお話しましたが、そのうちほぼ9割が山林や原野化している農地で、草刈り等で簡単に再生できる農地に関しては令和4年度が4.2ヘクタール、令和5年度が3.5ヘクタール、令和6年度が10.8ヘクタールとなっています。

ですので解消面積と言われますと、農家の人も簡単に草刈りができる農地が再生できるところに私たちは補助金を出してしておりますので、3割以上が解消されていると認識しております。

それから新規就農者への対応ですけれども、こちらの農地については農業委員や農地活用最適化推進員がパトロールをして見つけてくれた農地になります。そちらは情報を共有して新規就農者よりは逆に地域の担い手の方、規模拡大したい方に農地を集積している状況になっています。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 植澤委員。

○委員（植澤洋平君） 分かりました。適切に減ってきている部分はあるんでしょうし、先ほど来の取組でも進んできていると理解できましたので、規模拡大したい農業従事者にフォローアップしていただくことも含めて、ぜひ適切に引き続きやっていただきたいと思います。

続いて、新規就農者の件では、これまでの家族農業の機械購入支援あるいはハウスなどを含めた中古の機械マッチング、そのような取組の実績や効果はどうなっているのかお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 農政センター所長。

○農政センター所長（農業経営支援課長事務取扱） 農政センターです。

新規就農者向けの補助の支援ですけれども、機械導入補助としまして令和6年度につきましては2件になっております。それから中古ハウス、機械マッチングの成立ですけれども、こち

らについてもハウスのマッチングは2件進んでいるところです。

スムーズな経営開始の一助となっていることからマッチングや補助事業等、今後も進めていきたいと考えております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） やはり設備投資にいきなり1,000万円というのはなかなか難しいと思うんです。そこをしっかりと引き続きマッチングしていっていただきたいと思います。

あと、再生可能エネルギーの促進でメニューでありました。トマト栽培協議会への太陽光発電設備、それから省エネの機器の導入ですが、この事業における効果についてお聞かせいただきたいのと、同時に私は緑区の大木戸でソーラーシェアリングの視察をさせていただきました。あのようなソーラーシェアリングのような環境を、やはり農政としてもさらに広げていく必要があるのではないかと思うのですが、その辺の取組、考え方についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 農業生産振興課長。

○農業生産振興課長 農業生産振興課です。

まず、再生可能エネルギーの関係の効果についてですが、昨年度新たに設置いたしましたトマトハウスで、太陽光発電になりますが再生可能エネルギーを活用しました燃油使用料削減技術の実証を行いました。

その結果として、1つとしては燃油を使用しない電力のみの加温でも目標を上回るトマトの収量を確保することができました。2つに、燃油を使ってこれまでの慣行区と比較しまして、温室効果ガスの排出量を大幅に削減することができたとの結果を得られました。

続きまして、ソーラーシェアリングに対する取組ですが、引き続きこの実証を行っていきまして、再生可能エネルギーを活用しました栽培モデルの確立を目指すとともに、農業者の皆様には結果の公表や技術の普及を今後図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） トマト栽培の件では一定の効果が出てきていることは分かりました。栽培面もそうですが、私が申し上げているのはソーラーシェアリングのような再生可能エネルギーの普及も、導入支援の形で実際やっていらっしゃる農家の効果や、その辺の実際の影響をぜひいろいろな農家にフィードバックしていただきたい。その上での財政措置支援等々が必要であれば、しっかり対策を図っていただきたいと思います。

続いて有害鳥獣対策ですが、先ほども少し御議論ありましたので私が確認したいのは、イノシシやアライグマの捕獲数と、それから一番今多い地域の被害がどうなっているのか、どこなのかと。電気柵あるいは監視カメラ、これにおける効果と課題についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 農政センター所長。

○農政センター所長（農業経営支援課長事務取扱） イノシシ、アライグマの捕獲頭数ですが、環境局、農政部で今捕獲しております、イノシシについては令和6年度202頭、アライグマについては499頭捕獲したところです。

農地における出没件数については集計していないのですが、緑区、若葉区の農家の方々から多く出没情報等を聞いております。捕獲頭数が多い地区につきましては、イノシシは緑区越知町や下大和田町になります。アライグマについては緑区の下大和田、平山町になります。

電気柵につきましては市内で延べ36キロメートルの電気柵を設置しておりますが、獣害の農地への侵入防止に効果が上がっていると考えております。今後も捕獲と侵入防止、電気柵を組み合わせて対策を進めることが必要であると考えております。

監視カメラにつきましては、こちらは獣害の種類や行動などを確認しまして、効果的なわなを設置することが監視カメラによって可能となっております。今後も捕獲を強化するために継続的に利用を進めていきたいと考えております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） イノシシでは越知町、下大和田、アライグマでは平山町も出ているので、よく言われているのが、先ほども蛭田委員からありましたけれども、例えば市原市と隣接している地域からのやはり増えているとの話も聞いていますから、では、市原市での対応と我が市での対応、ここに何か差異がないのか。あるいは連携を強化していく必要があるのではないかと思いますが、その辺の考え方についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 農政センター所長。

○農政センター所長（農業経営支援課長事務取扱） 市原市につきましては、有害鳥獣の捕獲については府内捕獲で、府内で捕獲していくと取組が進んでおります。千葉市におきましても地域協議会を立ち上げまして、地域で捕獲していくと取組を進めているところでございます。

連携につきましては、県内、市原市や習志野市、八千代市の4市で県が事務局になっているんですけども、情報共有をする機会がございますので、そういう機会を通じて情報共有していきたいと考えております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） 結構市の境目の農家はいろいろ課題もあると思ってはいるんですが、いずれにしましても市原市からの影響は少なからずあると思いますので、そこで対策が進んでいくことで我が市の影響も軽減される面もあるのでしょうかから、ぜひ連携強化を図っていただきたいと思います。

では続いて、経済部に移りまして、まずは労働対策についてお伺いしたいと思います。

初めに、リスクリミングということで先ほども少し議論ありましたが、事業効果と課題と、あと決算状況を受けての今後の取組方針があればお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 雇用推進課でございます。

昨年度から研修計画を事前に策定した企業に対しまして、補助上限額を5万円から10万円に引き上げをしているところでございます。補助金の案内とともに研修計画の策定方法を学ぶセミナーなども実施しまして、計画的な人材育成を促す仕組みとして取り組んでいるところでございます。

そのような結果で、予算250万円に対しまして約262万円の活用をいただいているところではあるのですが、そういった意味では補助金のニーズは高いものの研修の出席者が7社と非常に少ないので、研修計画を策定いただく上での従業員の育成を図っていただく啓発を、今後より取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 植澤委員。

○委員（植澤洋平君） それでは続いて、奨学金返還サポート事業で、先ほども少し議論ありましたが、交付件数が少ないと感じておりますが、貸与型奨学金を利用している学生は、それこそポリテクカレッジ千葉、先ほど言った大学も含めてそれ以外でもやはり結構いると思うんです。

だからこれは対象大学を広げていく考え方ができるのか、つまりやはりそれだけ奨学金返済に苦しんでいるのはここに通う方だけではないですから、そこを市内企業、ものづくりと限定したとしても、もう少し広げていくような検討ができるのか、その辺の見解についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 今、市で取り組んでおります奨学金返還サポートにつきましては、ポリテク関連の職業訓練の施設に限定し、やはりものづくり系の企業に多く就職をしていただきたいという狙いで行っているところです。

大学等につきましては現在予定しているところではないんですけども、今、千葉県で中小企業の人材確保に向けた奨学金制度がこれから実施される予定でもありますので、そういった活用を市内企業にも促していきたいと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 植澤委員。

○委員（植澤洋平君） 県が動き始めたのはポジティブな面だと思っていますから、そこで足らざる面があれば、やはり我が市も財政措置しながら対象を拡充していく形で。これは1件、2件やったとしてもという話もありますから、もう少し市内の皆様方のしっかり広い支援につなげていけるようにお願いしたいと思います。

続いて就職氷河期世代の就労支援において、実際にスキル取得あるいは職場体験をやっていただいて就職に結びついた、その辺の効果はどうだったのかお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 昨年度の就職氷河期世代の就職者数につきましては、非正規雇用の形ですが5人の結果となっております。またスキル習得コースにつきましては、2人がハローワークの職業訓練に移行している実績でございます。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 植澤委員。

○委員（植澤洋平君） だから就職氷河期の人が、また非正規で雇用される、これもどうなんですかというところはあると思うんです。できるだけ正規で安定した職業に就いていただこうというのが本来の趣旨だろうと私は思うわけでありまして、希望の面となかなかいろいろ課題があるのでしょうから、ぜひその辺を分析して対策を強化していただいて、やはり正規できち

んと雇用されてよかったですとなっていただけるように強化していただきたいと思います。

もう一つ、労働相談です。件数が出ていましたが、相談の多い中身で上位3つ、あとは増えている相談はどのようなものがあるのか、お聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 昨年度、労働相談件数456件のうち多い順に申し上げますと、退職や厚生年金、雇用保険関係の相談が132件。職場内のいじめなどそういった人間関係の部分が127件、それと労働条件の関係で73件の順になっております。

最近増えている相談としましては、非常にニュース報道でされていますが、年収の壁のことろで、今働いている状態でこれぐらいのお給料をもらっているんだけれども、このまま今年働いていても大丈夫かといった御相談をいただくことが多くなっております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） 確かに自分がどうなってしまうのかは気になるのでしょうか、そのような傾向があるでしょう。

やはり私は、職場内の人間関係、ハラスメント面。それと同時に、なかなか減っていないんですけれどもカスハラへの対策等々も、その辺の相談対応をしながら、市としても適切な、中小事業者がこれからそういう対策を図るときにマニュアルをつくったりいろいろありますから、それを支援できる対策をぜひ強化していただきたいと思います。

続いて、ふるさとハローワークの件で伺いたいのが、直近3年の相談状況、実際就職できた方、この実績と、それから年代別の利用状況、事業の課題についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 直近3年間の相談と就職者数でございますが、利用者数でお答えさせていただくと、令和4年度が1万9,750人に対し就職が896人、令和5年度が利用者数1万8,540人に対し就職が906人、令和6年度が1万9,787人に対し1,043人となっております。年代別利用状況につきましては新規登録者のうち60歳以上が約36%、次いで45から59歳が34%と多い順となっております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） いずれにしても就職者含めて増えてはいるんですよね。やはりいわゆる売手市場の労働環境の中で、認知度がなかなか、そもそも行政側のサービスの中でそのようなものがあること自体を市民の皆様も知らない方は大変多いなというのが率直な思うところでございまして、ですから現役世代は先ほど34%と話でございましたので、私そこにもう少し届くような、周知、広告、そのような新しいアプローチを検討してみたらどうかと思うのですが、その辺いかがですか。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 おっしゃるとおりでございまして、我々も公共施設など比較的御高齢の方も利用しやすいところにも、ふるさとハローワーク等の御案内チラシ、あとはいわゆる本署のハローワークなど求職者の方が集まるところなどに行ってますけれども、少しここはまたいろいろ関係部署とも相談をしながら、より効果的な広報となるように利用促進に努めてまいりた

いと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） あと、この具体的な取組の中で、アバター相談という、インターネットでキャラクターのようになってやるものですかね。そのようなものもやっているということですが、やはりメンタルを病んでお仕事ができなくなって中断してしまう方が、もう一回再就職していく上では、専門の心理士などの相談対応の機能強化が大事かと。その辺の実績と効果、周知の取組についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 アバター相談につきましては予約制を取らせていただいておりまして、昨年度は1件だけですが利用をいただいております。

相談内容としては、就職活動中の大学生が就職活動に対する悩みで、どんな仕事をしたらいいか分からぬなど、そういう悩みの相談から入っているところでございます。

周知については、相談も含めたふるさとハローワークのリーフレットを作成しまして、公共施設や市内大学、それから商業施設等への配架などを行っているところでございます。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） いろいろ大学も含めて商業施設など取組もしていただいているとのことで、でき得る限り届く情報周知の取組を含めてお願いをしたいと思います。

続いて物価高騰対策ですが、先ほども件数などは御議論がありましたので、私から確認したいのは、物価高騰でいろいろな資材費、人件費が上がっていると。一時的に5万円、10万円は非常に助かるというお声が、先ほど来アンケートでもあったとのことでございますが、今後、事業を運営あるいは継続をしていくに当たっての課題は、今どのような声が事業者から上がっているのか、その辺についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 産業支援課でございます。

○産業支援課長 産業支援課でございます。

第2弾まで受給者へのアンケートを取っておりますが、その中の御意見、事業継続に当たって課題に考えていることでございますが、やはり今後の経済情勢、今は米国の関税措置も出てきておりますが、そのほかやはり物価高騰や価格転嫁、賃上げ、それから今、金利上昇局面でございますので、金利上昇に伴う資金繰り、そうしたところを課題に上げている事業者がいらっしゃいました。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） それから今回、最低賃金がかなり60円程度上がってきていると。いろいろ事業者から聞くと、人件費の負担が上がっている。それにおける支援、お声も多く頂戴するわけでございまして、ある意味で今回、物価高騰対策は国の地方創生臨時交付金を活用しながら展開してきた事業でありますと。私はだから次の局面で、同時に働く人の賃金をしっかりと上げていく取組を行政側として、もう少し取り組んでいく必要があるだろうと思っています。ですから今後、国も今、秋の臨時国会でまた追加の経済対策が出てくるだろうと思います。そ

のときに地方創生臨時創生交付金を使って、新たな賃上げ等々で苦しんでいるところの支援も検討が必要ではないかと思いますが、その辺の考え方についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 今回の議会でも可決いただきましたが、採用に係る支援で、今、新たに中小企業向けには実施をさせていただく予定ではありますけれども、今後の交付金等につきましては現段階では詳細が決定してございませんので、一概には見解を申し上げられないですが、これまで賃上げに係る支援に関しては、事業者の生産性向上に取り組む方に対しての設備投資等の支援などをしているところであります、そういった確保した収益で経営判断の上で賃上げをしていただくような、間接的ではありますが支援をさせていただいているところでございます。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） なかなか今までの、要するに設備投資などの支援の中で、失われた30年と言われる中で、十二分に結果が出ているのかを問われているわけです。国の賃上げ税制も、要するに赤字の中小企業は使えないわけです。ですから、そうなったときに、例えば千葉市で言えば1万5,000社ぐらいの中小事業者があって、そういったところが本当に賃上げで苦しんでいると。そのような中で支援が届けられる仕組みを、ぜひ経済部に、真剣に私は考えていただきたいと要望しておきたいと思います。

続いて、産業用地整備について伺いたいと思いますが、市内で今、産業用地整備をやっている中で、企業立地の補助金の利用率がどうなっているのか、同時にその中で大企業と中小企業の利用実態がどうなっているのか。同時に千葉市全体で見ますと、令和6年度の立地企業数、それで今回千葉市がやる補助金の利用率はどうなっているのか、その辺についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 企業立地課長。

○企業立地課長 産業用地整備で進めておりますネクストコア千葉誉田の進出企業は全5社ありますが、その全てを事業計画認定しております、令和6年までに3社に対して補助金を交付しております。

大企業と中小企業の峻別につきましては、すみません、今、手元で明確なものがなくてお答えできませんので、後ほど提供させていただきます。

それと令和6年度中に市内に立地した全企業数は把握することはできないんですけれども、直近の税の統計によりますと、法人市民税の納税義務者は令和4年度から5年度にかけまして633社増加しております。また、令和6年度の企業立地の補助金の交付企業数につきましては135社となっております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） ネクストコア千葉誉田での進出企業での認定でいえば6割程度でございまして、だから全てではないんですよね。実際問題この補助金を活用しながら市民の雇用が増える、税収が増える建前はそのとおりだと思うんですが、一方で外国人雇用である特定技能制度を活用している企業数はどうなっているのか。

やはり私は地元の雇用要件はもう少し市民雇用をしっかりと、3割、4割ではこれはどうなんだと。それで安い外国人を使って、例えば、内部留保が増えてしまう、我々の税金で。これは全て市費ですから、だからこれは税金の使い方としてどうなんだとの議論になると思うんです。ですから私は雇用要件や補助額、そういった部分を含めた見直しを、ぜひ図っていただく必要があるだろうと思いますが、それについての見解をお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 企業立地課長。

○企業立地課長 立地企業の中で特定技能や外国人の方を雇用している企業数は捉えてはおりませんが、ネクストコア千葉市における進出企業においては特定技能の方が約300人いることは伺っております。

補助制度につきましては、企業ニーズなどを参考に毎年見直しを図っているところでして、今年度につきましては賃借型の事務所の規模要件の下限を80平米から120平米に引き上げるとともに、スタートアップ賃借立地事業を創設しております。引き続き効果的な制度となるように検討してまいりたいと思っております。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） 本当に、だから市民の雇用がどれだけ増えているかの要件の確認を、今、300人と言いましたがかなりですよね。300人の外国の方が来ている状況が生まれているわけですから、もちろん外国人が云々かんぬんの話ではなくて、市民の皆様の雇用をどれだけ増やしていくとの建前の中で、もう少ししっかりやっていただく必要があるということ。

同時に先ほどの議論に戻りますが、賃上げの面でもやはり効果測定していくような、先ほどの設備投資の面で国がやっている事業の中でも要件として賃上げの要件を加えてきているところがあります。だから政府もやはり賃上げになってきている。だから我々千葉市としましても、ある意味ではこのような企業立地の中で、もう少し賃上げ要件も含めた事業スキームを展開できないのか、それについての見解はいかがでしょうか。

○主査（白鳥 誠君） 企業立地課長。

○企業立地課長 現時点におきまして立地補助制度の中で賃上げを補助における要件とするものは考えておりませんが、先ほど申し上げましたとおり引き続き企業ニーズ等を把握しながら、より効果的な制度となるようには検討してまいりたいと思います。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。残り10分を切りましたので。

○委員（梶澤洋平君） 分かりました。

とにかく、20億円以上の莫大な市費が投入されている事業の中でございますので、先ほど来、効果的などありますので、ぜひその観点もやはり頭に入れていただきたいと思うんです。ただ、企業が増えればというだけではなくて、そこで働く人たちが安く、そうやって外国の方でやればいいではなくて、やはり私たちの働き手の賃金がきちんと上がっていく形の企業でやっていかなければいけないのではないかと申し上げておきたいと思います。

続いて、観光プロモーションについて先ほども御議論ありましたが、千葉市民花火大会における経済効果はどうだったのか。私どもかねてから申し上げているんですが、いろいろな地域でも、例えば、緑区でいえば昭和の森の花火大会を今年もやろうなんて話がありますが、地域の支援の拡充もやはり必要ではないかと思いますが、その辺の取組、考え方についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君）　観光M I C E企画課長。

○観光M I C E企画課長　千葉市民花火大会についての経済波及効果につきましては、千葉市産業連関表により分析をしておりますが、令和6年度の波及効果は約6.5億円と算出をしております。

あわせて、地域の花火大会の支援でございますけれども、地域の花火大会につきましては地域のにぎわいの創出の観点から各区役所において、公園もしくは会場となる公園の使用料を公益性があることであれば減免をしている状況でございます。こうした支援について今後も継続して行うことによって地域のイベントの振興を図っていただきたいと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君）　梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君）　やはり各地域でも頑張っているところがあるんですから、以前ナイトタイムエコノミーのフォローアップの中で、申請をしながら対応したケースもあるでしょうが、私はだから観光の面でも含めて、もう少し地域へ目配せして予算配分を考えていきたいと要望しておきたいと思います。

最後に、競輪事業についてお伺いをします。

250競走の施設整備における本市の財政支出の総額と、実際問題、売上げの目標は、令和6年、7年は、今、上期になるんでしょうか、そこにおける実績と達成率をお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君）　公営事業事務所長。

○公営事業事務所長　公営事業事務所です。

まず事業費、整備の総額になりますが国有地取得14億円と旧競輪場解体除却17億円で計31億円となっております。

続きまして令和6年度、7年度の車券の売上達成率になりますが、令和6年度車券予算42億円に対して車券売上げ38.8億円、92%の達成率となります。今年度、令和7年度につきましては車券予算が55億円に対しまして、上期の着地は14億円程度見ておりませんので、割り戻しますと約50%の達成率になるものと考えております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君）　梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君）　達成率は令和6年度で92%ではございますが、実際問題10月から休止すると先ほども話がありましたので、ある意味で売上不振の要因ですか、かつては場外売場があつてそこに人がたくさんわっと来て、そこで買っていたようなイメージがあるわけでございますが、あれをなくした影響も大きいのではないかと思うんだけれども、その辺の考え方はどうなのか。

県内の競輪場の動向、あるいはほかの250競走の売上比較、千葉市を見ますとどうなっているのか、お聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君）　公営事業事務所長。

○公営事業事務所長　公営事業事務所です。

まず、想定よりも大分下回っている状況でございますが、これは私どもが競輪の新しいお客様にリーチしたいということで、新しい顧客層を狙ったために新規顧客の取り込み、新規のお

客様の確保が難航したところと、チャネルの拡充が専用システムを使っていていたことで広がらなかつたところが非常に大きい要因だと考えております。

場外車券売場などが今なくなっている実情でございますが、現状の競輪売上げの発売構成はほとんどがインターネットになっておりますので、多少なりとも影響はゼロではないのですが、場外発売がなくなったことが大きな要素ではなかったとは認識しております。

また、ほかの競輪場の売上げでございますが、昨年度でございますと、県内ですと松戸競輪場が約384億円の売上げとなっております。250競走は私どもだけが行っておりで250競争同士の比較はできないのですが、競輪場全体で大体平均しますと凸凹はありますが300億円程度とは言えますので、250競走は若干苦戦しているのは事実でございます。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） 今はインターネットにシフトはしているとは言え、我々はあのような場外売場で楽しみにしてやっていた市民の皆様もいらっしゃったでしょう。いずれにしても我々としては競輪はどうだったのかと、あの時点ではもうやめる方向だったので無理やり250競走にしたところで非常に苦戦している。だから松戸競輪場と比較したら10分の1だという話ですよね。では販売チャネルが増えたから、それが10倍になるのかだと思うんです。

今後10月から休止をして再開したときに、例えば入場人員、売上げは1回開催当たり何人で幾らになれば大丈夫になる見立てになるのか。あとは休止期間中の具体的な対応策についてお聞かせいただけますか。

○主査（白鳥 誠君） 公営事業事務所長。

○公営事業事務所長 再開後の入場人員、売上げの目標でございますが、現時点では設定しておらないのが事実上でございます。現在再開に向けた競輪団体における協議の中で開催数なども検討されることになりますので、そういったところが整いますと目業が定められる状況になってまいります。

また休止期間中でございますが、まずは私ども今開催形態の見直しで競輪業界の皆様と議論を行っているところでございますが、そのほかに現にドームでは様々なにぎわい創出で寄与してきた自負もございますので、自転車ファンに向けたイベントでしたり、250競走のファンに向けたイベント、あるいは自転車競技大会の開催、こういったものを今調整しているところでございます。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） 具体的な数値目標はないとの説明でした。だから販売チャネルが本当に増えて、人が増えるかの面や、やはり不安な印象は拭えないなと。であるならば、やはり多目的な利用の施設の取組がもう欠かせない局面かと思います。

これまで競輪以外で多目的利用の実績、あるいは入場者が多かったイベントはどのようなものがあったのか。あるいは貸し出す料金を見直すなどして、もう少し市民の皆様が別口でも活用できる施設展開も考えていく必要はあるのではと思いますが、その辺についていかがですか。

○主査（白鳥 誠君） 公営事業事務所長。

○公営事業事務所長 昨年度は自転車競技大会を6大会、開催しております、そのほか自転

車競技ではなくイベントでありますと、フィットネスイベントだったり格闘技の試合であったり、こちらも7件の施設利用がございました。

入場者が多かった催しになりますが、これは令和5年度にeスポーツの国際大会が行われています。これが10日間開催されましたが、1日2,500人と興行人員があったと聞いております。

施設利用料になりますが、ドームでございますが民間事業者が所有しておりますので民間事業者がそこも収支の中で価格を設定しているところでございますが、私どもも自転車競技をもっと振興したいということで、今年度は高校生の自転車練習料金を新たに設けまして、これは大分お安くしているなど、こういったところは企業も努力をしてくれているところでございます。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 桧澤委員。45分はもう経過しました。

○委員（桜澤洋平君） 分かりました。ではまとめますので、ありがとうございます。

今ありましたけれども、eスポーツでかなり人は来ている話もあると。格闘技やフィットネスの話もありました。もちろん今、高校生の部分で少し料金の見直しも図りながらとありましたので、いずれにしても、もう少し市民の皆様が、もちろんスポーツ競輪の部分は分かるんだけども、それ以外でも今のような話でいろいろな事業展開も考えられるのであれば、そこにに対するもう少し周知あるいは財政措置もしながら利用者を増やしていく。

せっかくあれだけのものがあるので、あれを壊せとはいかないわけですから、しっかり地域の拠点としても、市民の皆様のいろいろなニーズに応えていく施設として、今回いろいろありましたので、そのような部分も含めた御検討をぜひお願いをしておきたいと思います。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） ありがとうございました。

ほかにございますか。渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） 一問一答でお願いいたします。

まず初めに労働対策のところで、千葉アントレプレナーシップ教育コンソーシアム、こちらの項目で決算の金額自体が少し減っているのと、また、内容は何が変わったのか、先ほど大分詳しくいただいたんですけども、少し聞き漏らしてしまったかもしれないんですが、対象の学校数などの変更があったのか企業の数だったか、再度お伺いしたいです。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 雇用推進課でございます。

拡充事業としましては、今、アントレプログラムとしては高校生対象の千葉公園の起業チャレンジが新規で行われたものと、小学生対象の食をテーマにした起業家体験ゲームといったもののコンテンツを新たに実施しているところでございます。

それ以外に出前授業として、7校の学校でアントレプログラムを実施しているところでございます。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） ありがとうございます。応援をしているメンバーもありますので、しっかりと今後も若者支援と企業とがつながる大事な接点ですので、これからも応援をしていきたいと思っております。

次の、奨学金返還サポートの1件は、やはり私も少ないとthoughtいたので、拡充と書いてあったのに交付は1件で、拡充が結局何だったのかと思ったら、先ほど聞いていたら学校数が1校が3校になったとのことでしたので、これは多いのか少ないのかやはり検討が必要で、ほかの大学等でもものづくりにつながる意味ではあると思いますので、要件を大学に限定せずとも千葉市のものづくりに反映できるような人材育成につながるようであれば、対象は広げていただけることを要望したいと思います。

それから労働対策のその他についてですが、ふるさとハローワークの管理やインターンシップ促進セミナー、就労・転職支援、就職氷河期世代就労支援、労働相談、これは大体どれぐらいの金額で内訳を教えていただけますでしょうか。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 その他に記載の各事業の決算額ですが、ふるさとハローワークにつきましては1,696万1,000円、インターンシップ促進セミナーが569万4,000円、就職氷河期世代の支援については1,346万9,000円、労働相談が470万8,000円になります。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） 私は経年でいろいろ比較して見ていくんですけども、その中でインターンシップ促進セミナーの参加企業数が毎年令和4年から見ていくと大分減っていると思いますが、この辺の理由と今後この部分についての見通しなど教えてください。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 令和4年につきましては104件と非常に多い状況でございますが、令和4年の時点で大学2年生に対して、一定の基準に準拠するインターンシップで得られた学生情報が、その企業においての採用活動に使えるようになったことが、制度変更として国が出しまして、それにより一時期、非常に需要が高まったのではないかと考えているところではございます。

令和5年につきましては、その前の令和3年以前の参加企業数とほぼ同じぐらいの推移に、また戻ったような状態になるんですけども、昨年度につきましてはセミナーの実施回数が5回から3回に減らさせていただいたところもありまして、減少したのではないかと考えております。

また、例年やっている中で、インターンシップの受け入れ方法といった意識を持った企業の受講が、ある程度進んだところも減少傾向にある理由とは考えております。

今後につきましては、今、就職活動を非常に早い時期に動き出す学生となかなか動かない学生と2極化が進んでいる状況でありますので、最近、秋冬の時期のインターンシップをこれまで取り組んできたのですが、そこのニーズは学生にとって非常に低下してきているとの課題がございます。

そのような状況でございますので、今年度から別の方法を取りたいところで、県の事業で連携をさせていただきまして、学生が1日に二、三社、実際企業を回っていただいて職業体験をしていただくバスツアーに、今年度から参画をさせていただいているところでございます。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） ありがとうございます。世の中の情勢が変わるなど大学生の動向が変

わる中での努力をされていることがよく分かりました。

それ以外にも就職氷河期世代の就労支援ですけれども、これは件数とほとんど同じような経緯で推移しているんですが、これが3番の求職支援に入っていたりその他に入っていたりで、私が事業を検証していく中で、くくりが変わったり金額が入っていたり入っていなかったりするので、今後これを分かりやすく見せていったり、効果があったかないかが見られるような書面にしていただけたとあります。

その中で6,500万円ほど労働対策として毎年支出されていると見たんですけども、その中の効果といいますか、評価について、令和6年についてどのように評価されていますでしょうか。

また、これまでの経緯と今後についても、もしお話しいただけるようでしたらお願ひします。

○主査（白鳥 誠君） 雇用推進課長。

○雇用推進課長 効果につきましては、求人・求職支援につきましては基本的にはやはり市内の中小企業とのマッチング数を追ったり、あとはアントレも含めてですけれども人材育成面におきましては、補助金については申請数であったり参加者数を指標として図っているところでございます。

そのような中で求人・求職支援につきましては、特にふるさとハローワークで1,000人を超える就職者数となったり、人材育成やリスクリソースにつきましても100社の企業が御活用いただいているということで、一定の成果は昨年度もあったのではないかと考えているところでございます。

そのような中で、今後も引き続きそういった効果のある事業も継続しつつ、一方で売手市場の中で非常に人手不足が顕著になっている業種や、やはり就職活動が長期化するような求職者も中にいらっしゃいますので、なかなかそういった成果が出にくい事業ではあるんですけども、必要であるところも考えながら、企業や求職者の皆様などいろいろお声を伺いながら事業を取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） ありがとうございます。地域の産業のために地域の企業の方たちに寄り添ったり、大学生のニーズに沿って御努力いただくように、今後もよろしくお願ひいたします。

次に、産業振興財團関係費のところで、創業支援で昨年度オープンスペース型強化支援施設、こちらの運営以外にも女性起業家フェスタ、女性のための起業応援セミナーを行っていただいて、これ自体はすごく評価しているところですけれども、これも先ほど言ったのと同じで、令和5年には産業振興財團の関係費に入っていたものが令和6年はここから外れている、女性の起業家向け支援については逆に本庁で行うように変わったのか、その辺が変わったかどうかについてお示しください。

○主査（白鳥 誠君） スタートアップ支援室長。

○スタートアップ支援室長 スタートアップ支援室長でございます。御質問ありがとうございます。

創業支援について、女性向けの件ですけれども、当初は女性向けの支援も千葉産業振興財團

が行っておりました。令和5年まででございます。テーマが女性活躍の切り口でいきますと、もともと千葉市産業振興財団は個別の支援が得意でございまして、それが女性活躍というテーマ、これはもうやはり全市的に取り組む案件でもございますので、令和6年度以降、市で一体的に取り組んでいこうとの思いの下に、市で引き上げさせていただいて、いわゆる女性の起業家フェスタあるいはセミナーを市の事業として行っておりまして、今年度もその流れで市で行っておるところでございます。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） 状況がとてもよく分かりました。すごく見え方が変わって連動性が出てきたと思っていたので、引き続き女性の創業支援は力を入れていただきたいと思います。

それからイノベーション拠点整備支援、令和5年は1件、令和6年は3件助成となっていますけれども、これについての効果、成果は先ほども少しいろいろお話しいただいたと思うんですが、再度お伺いします。

○主査（白鳥 誠君） スタートアップ支援室長。

○スタートアップ支援室長 スタートアップ支援室長でございます。御質問ありがとうございます。

イノベーション拠点認定事業につきましては、これまで市内4か所認定をさせていただいております。その効果としまして、まず各拠点におきまして、それぞれの利用者あとは投資家等のゲストによる交流会やセミナー等が実施されるようになっておりまして、いわゆるコミュニティ形成、これがそれぞれでなされているんだろうと考えています。

あわせまして、拠点にはそれぞれコミュニティマネジャーが常駐されておりまして、その方を経由して、いわゆる市の政策支援事業の周知や説明を図っておりますので、結果的に利用者の皆様に情報が届くようになったのではないかと思いますし、私どもからすると、いわゆるいろいろな支援先の掘り起こしがされるようになったと考えております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） 各拠点もカラーがあってそれぞれ得意な分野などもあったりするのだろうと思いますし、コミュニティマネジャーを経由して支援内容が市が届けるよりもマッチしやすい形で届いていると認識をしました。

その上で、創業支援補助金の利用自体が少し減ったと思っているんですが、減ったわけではないですね。創業支援補助金の動向について、どのように令和6年度は見られていますでしょうか。

○主査（白鳥 誠君） スタートアップ支援室長。

○スタートアップ支援室長 スタートアップ支援室長でございます。

創業支援補助金につきましてですが、創業者研修を受講されてその後創業した者の数を把握しておりますと、令和4年度から64人、令和5年度が74人、令和6年度が99人と創業されている方は増えている傾向にございます。ただし、創業された方のうち全てが創業者補助金を使うことではないと思っていまして、結果として令和6年度につきましては前年度より活用が少なかったとのことでございます。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） 研修の効果も出ているとのことですですが、せっかく出す補助金ですので使いやすい形だったかの点を一応チェックしていただいて、より利用していただけるように改善をしていただければと思います。

企業立地の促進について伺います。

補助金の対象に、賃借型、農業型といろいろありますけれども、これの継続助成のところが予算で想定したときよりも減っていらっしゃるんですが、その理由について御見解を伺います。

○主査（白鳥 誠君） 企業立地課長。

○企業立地課長 まず賃借型につきましては、雇用奨励補助金におきまして当初想定しておりました市民雇用者数の増加がなかったこと、あと反対に、市民雇用者数の増加が著しくて申請に必要となる同意書の取得などの手間を回避して、企業側が申請を辞退するケースも見られております。

また、農業法人におきましては補助金の要件としまして、直近3か年の合計で黒字がございますが、それを満たせず補助金の申請に至らない企業が幾つか見られたことが要因となっております。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） ありがとうございます。先ほどから出ていますけれども、市民雇用数はとても大事なことではあるんですが、何かしらの簡略化や継続に当たっては、もしかしたらそういう申請のしやすさの意味では、やはり検討が必要と思いました。

農業法人はとても重要なことで、赤字になっていないという要件はもちろん付すことには反対はないのですが、その理由や今後の見通しなども含めて何か申請の緩和ができるようであれば、私も不勉強なのでその辺りは分かりませんけれども、ますます促進につながる制度によりよく変えていっていただくよう要望しておきます。

次に、産業用地整備支援についてですけれども、次期候補地の基礎調査が令和6年度でされておりますが、私も流れが分かっていなくて、この先どのような流れで進んでいくのかについてお示しください。

○主査（白鳥 誠君） 企業立地課長。

○企業立地課長 基礎調査におきましては、これに先立ちましてまず令和元年と令和4年にも同様の調査をしておりまして、今進めているネクストコア千葉生実、その次に続く産業用地の候補地の選定のための調査を行っているところでございます。

調査結果につきましては、審議案件もございますので非公開にさせていただいているんですが、今後外部審査会による審議等を経まして候補地を選定していくこととなります。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） 今後、外部審査会による審査の動向を私も見させていただきたいと思いますが、とても産業用地の整備自体効果があるものだと考えておりますのでしっかり検証を進めて、今後の見通しは私もよく分からないですけれども、見させていただきたいと思います。

次、農政部で食のブランド千について大分皆様がお伺いして内容は聞けたのですが、1点、令和5年度にあった農業者や食品関連事業者の経営力向上支援があったのですが、これ自体に

ついて令和6年の状況が分からなかつたので、単発的だったのか今後も続いていくものなのか、お示しください。

○主査（白鳥 誠君） 農政課長。

○農政課長 農政課でございます。

農業者や食品関係事業者の経営力向上支援につきましては、成果説明書には記載していないんですけども、令和6年度につきましても令和5年度と同様に実施をいたしております。

実績といたしましては、食のブランド千の認定に向けた申請書のブラッシュアップ等の短期的な支援を30件、それから商品開発などの中長期的な支援を3件実施しております、決算額は750万円となっております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） ありがとうございます。それこそが事業者にとって大切な支援だと思いますので、予算額が減っているのか増えているのか分かりませんけども、今後も力を入れていただきたいと思います。

次に、耕作放棄地の再生促進についてです。

再生には費用もかかって、だけれども重要な事業だと理解しております。以前、この資料に書いてあったものではないんですが、耕作放棄地の補助対象者を拡大したと記憶があるんですが、どのような拡大を行ったのか、地域なのか事業者などのなど、そういった辺りをお聞かせください。

○主査（白鳥 誠君） 農地活用推進課長。

○農地活用推進課長（農業委員会事務局次長併任） 農地活用推進課です。

令和6年度から農地所有適格化法人や認定農業者等に加え、農業者または農業者等の組織する団体と補助対象者を拡大して、全ての農業者の方と拡大しています。その効果として、令和5年度の荒廃農地の解消面積が1.74ヘクタールから令和6年度は3.09ヘクタールと増加をしており、今のところよい結果が出ていると思われています。引き続き本事業の周知と、これ以上荒廃農地を増やさない事前の農地の把握に努めてまいりたいと思っております。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） ありがとうございます。皆様の関心も高いところで、引き続きこういった未然防止含めて補助金の申請等にも寄り添って使える形で生かしていただければと思います。

未来の千葉市農業創造の部分についてですけれども、私たち産業施策としての農業として積極的に支援をしていくように、令和5年から支援メニューがいろいろ組み替えられて活用されて、とても助成の件数、金額等伸びていると思っています。

これについてですが、申請されたものについて全て助成できているのか、お断りするケースなどもあるのか、採用されなかった場合にはその理由についてお聞かせください。

○主査（白鳥 誠君） 農政部長。

○農政部長（農業委員会事務局長併任） 農政部です。

令和6年度の決算におきましては1件の辞退がありました、ほか申請があったものは全て採択しております。なお、助成に当たりましては申請があった事業計画書等について、書類

審査や面接審査を実施しまして、採点結果により採択するかしないかを決定しております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） ありがとうございます。引き続き、応援メニューはどんどんブラッシュアップされて、よいメニューになっていると思っていますので、今後も農業者支援に力を入れていただきたいと思います。

令和6年度の成果説明書にはなかったんですが、令和5年に行っていった農業労働力確保支援について、令和6年の実施はあったのかなかったのか、効果についてお伺いします。

○主査（白鳥 誠君） 農政センター所長。

○農政センター所長（農業経営支援課長事務取扱） 農政センターです。

農業労働力確保支援事業につきましては、令和6年度につきましても継続して実施しております、6経営体に52万1,000円を助成したところです。経営の規模拡大や新規参入等に伴い、新たな雇用を確保した農業者に対し経費を助成することで、引き続き経営の安定を支援していきたいと考えております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） ありがとうございます。農業も法人で雇用する形態も結構見られてきておりますので、こういった支援も有効と思っております。

次に、新規就農の推進の部分ですが、新規就農の研修生を支えるための取組、大変よいものができるていると思っています。先ほども少し伺っているかとは思いますけれども、令和6年の新規就農者はどれくらい増えて今後どれくらいうずつを増やしていく見込みなのか、そういう辺りをお伺いします。

○主査（白鳥 誠君） 農政センター所長。

○農政センター所長（農業経営支援課長事務取扱） 農政センターです。

令和6年度に新規に参入した農業者につきましては個人、法人を合わせまして25経営体になります。令和5年度は33経営体、令和4年度は20経営体が新規就農している状況になっております。以上のことから、年に20経営体程度の増を見込んでおります。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） 新規就農といつても千葉市でやっている研修だけが全てではなくて、いろいろな増やし方、新規就農する方を増やす目的に対して、市内事業者自体もいろいろと御努力されていると思うんですけども、そういう辺りを総合的に見て、新規就農が増えていくような組み立てにしていったらいいと思うんですが、その辺りの御見解を伺います。

○主査（白鳥 誠君） 農政センター所長。

○農政センター所長（農業経営支援課長事務取扱） 千葉市で研修していますニューファーマー育成研修につきましては市内農家で実地研修もありまして、研修生は現に営農している農業者の下で農業の様々な経験を積むことができております。

また、地域で幅広く営農されている農業者の方に弟子入りしまして、経験を積んだ後に市の研修を受講したり、さらに金融機関が設立し農業参入した法人が新規の法人参入を栽培から支

援している事例等もあります。そういうところとも連携しまして新規就農を推進していくたいと考えております。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） どうもありがとうございます。多様なルートがあることが分かりましたので、現場を見ていただいているんだと感じました。これからも推進を求めております。

みどりの食料システム戦略については、先ほど再生可能エネルギーを活用した燃油使用削減等のことをお伺いしましたので、こちらはこれだけではもちろんないと思うんですけども、一つの成功例で広げつつ、ほかにもあると思うんですが、スマート農業の推進に対して令和6年度の進捗がありましたら、ほかにもお伺いします。

○主査（白鳥 誠君） 農業生産振興課長。

○農業生産振興課長 農業生産振興課です。

スマート農業の推進につきましては、昨年11月に新しくトマトハウスを建てましたが、新トマトハウスのお披露目会と併せてスマート農業展示会を開催いたしました。開催に当たりましては17社の企業に御協力いただきまして、農業者がスマート農業技術に触れ企業との交流を深める場を提供いたしました。

また、栽培環境を把握できる環境モニタリングシステム機器を農業者の皆様に貸出しをして、その機器の有用性を実際に体験していただきました。さらに、農業者の皆様がスマート農業機器を導入する際には、未来の千葉市農業創造事業により経費の一部を助成いたしまして生産現場での導入を支援いたしました。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） 私も先日見させていただいて、農政センターが地域の農業振興のために拠点としてすごく生かされているのだと感じておりますので、今後もそういったスマート農業、ほかの有機農業も令和6年度ではないと思うので質問しないんですけども、また引き続き見させていただきたいと思って応援しております。

最後に少しだけソーラーシェアリングについて、樋澤委員からもあったんですけども、私もソーラーシェアリング推進をお願いしてきたんですが、導入が1社と独占等になるようでしたら難しいということもあって、いろいろな事業者が今、ソーラーシェアリングの事業者の中でも出てきていると思います。千葉市としてもこういった応援ができるように官民連携、そういう事業の中での連携が今スタートしていると思ってはいるんですが、事業展開として補助金等を先ほどもおっしゃっていましたけれども、そういうものなど、さらにブラッシュアップしていけたらと思っています。

令和6年に、もし何か官民連携でやったことがあつたらお示しいただきたいんですけども、費用がかかっていないかもしれないけど、決算審査で聞くのは違うのかもしれないですが、もし何かそういう状況がありましたら教えてください。

○主査（白鳥 誠君） 農業生産振興課長。

○農業生産振興課長 ソーラーシェアリングに係る取組につきまして、千葉市が直接行っているわけではないのですが、現在市内で営農型太陽光発電に係る技術に実績がある企業や農業者、

また大学とともにスイレンにおける実証を行っております。これらの結果等も含めまして、パネル下での栽培技術に関する情報収集を進め、先ほど樋澤議員からも緑区でソーラーシェアリングをやっている実例がありますとのことでしたので、そういうものも含め情報収集を進めまして、導入を希望する農業者の皆様へ適切な助言を行うことができるようにしていきたいと思っております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） 渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） ありがとうございます。嘗農型太陽光パネルの設置はほかの起業応援のコースでの助成金なども使えるとはもちろん思いますけれども、環境保全型農業の一つとしての私も思い入れもあったので伺わせていただきました。これから推進に期待したいと思います。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） ありがとうございました。

最後、石橋委員お願いします。

○委員（石橋 毅君） 2点ほど一括で結構ですので。

観光資源につきましてお聞きしたいんですけども、いろいろな施策を用いてきておりますが、海岸通りの観光資源をどのように生かしながら、千葉港に桟橋ができたんだけれども、それについての去年の活動はどのような状況だったのか、教えていただきたい。

同時に、内陸部に対する観光資源をどのように捉えているのか。何か千葉市は勘違いしているのか分かりませんが、幕張メッセといえば観光の地だと、数字だけが現れているんですけども、私はあそこはビジネスの場所だと思っています。それで高給な人は東京に泊まって開催日だけここに来る状況で、費用手当がいっぱいの方が地元に泊まるような、これは観光のお客になるのかならないのか分かりませんが、新たな観光資源として、ぜひ単体であるものをうまく循環しながらできるようにしていただければと思うところです。

内陸部に行けば昭和の森から泉自然公園、それから更科にはいろいろなそのような資源があると思うんですが、これらが単体なゆえに観光としての全国的なまだ流れを通っていない。またそこに着眼をして旅行会社の営業がやっていただければ全国的に広がるのではないかと思うんですけども、観光が来ることになれば経済も活性化しますので、大きな財源になると思いますので、ぜひこれはやっていただきたいと思う。

それで、去年でしたか、更科で1つだけ試験的にバルーンを上げましたよね。これらもさらのバルーンにしてではないんですけども、千葉市としても今度は富田の分校が廃校になりましたから、あれらを拠点にしてあそこでバルーンを一つの観光資源として活用していただければ、来県者もかなり増えるんではないかと思うんですが、その点を一つ聞かせてほしいのと同時に、それから観光バス、1台手当てをしたと記載されている。これだけ観光としての千葉市の魅力がないからこういう状態なのか。また千葉市民としてそのようなことに関心がないからこのような状態なのか、ここに1万5,000や2万と観光バスが書いてありますよね。

それからもう一つはイルミネーションです。千葉駅から中央公園にかけてイルミネーションしているなんだけれども、最初のときはすごく華やかで見たくなるような雰囲気だったなんだけれども、コロナが終って今は単色です。1色ぐらいしかないですから、千葉駅から降りてイルミ

ネーションが中央公園まで歩けば楽しみがあるような、何か仕掛けをしていただきたいと思うんです。

せっかく中央公園に冬だけスケート場ですか、屋内でやっているんですが、それらはあそこの人たちだけで。これはやはり来県者が多くなることによって経済効果がまた増える。それで千葉市だけではなくてイルミネーションについてもそれぞれの組織から、例えば商工会議所や観光協会などそのようなことと連携をしながらより一層華やかな、ツーリストで千葉市にこういうのがあるよって話題になるような施策を用いていただきたいと思います。

そしてなおかつ、今、工場夜景をやっていますね。これらももうどのようない状態になっているか分かりませんけれども、それらも合わせて夜はこうだ、昼はこうだということで。

それからもう一つは、先ほど言ったように後楽園球場へ行って野球を見て、野球を見るだけではなくて早く行って銀座で遊んで野球を見て一杯やって帰ってくると。千葉市は仕掛けがないんです。だから野球に来ても、もう野球見て帰ると。そのような仕掛けを観光でしっかりとやっていただければ、中央商店街も活性化すると思うんですが、どうも中央商店街におきましては親子三代祭り以外はあまりやっていないので。

それから今度、千葉駅から千葉神社まで観光資源としてやろうと買収が進んでいる。これは令和6年度の件ではございませんけれども、これから投資したものに対してどのような成果を求めて千葉市はあそこにつくっていくのか、将来的展望があれば教えていただきたい。よろしくお願ひします。

終わります。

○主査（白鳥 誠君） 経済部長。

○経済部長 経済部の長谷部です。盛りだくさんの質問ありがとうございます。

まず、桟橋を活用したところにつきましては、千葉ポートタワーがございまして、その指定管理者が美術館など、周辺と連携したにぎやかしといいますか、活性化ができないかと協議を進めたり、そのような動きをしているところでございます。

内陸部につきましては現在グリーンツーリズムで、今おっしゃったように点在しているところが問題になっておりますので、ドライブマップを使いまして、今、周知を行っております。この中にはドライブコース以外に、例えば史跡、あとは観光農園、そういうものを広めて滞在時間を伸ばしていただきたいと、そのような取組をしております。

中でも閑散期である1月から3月ぐらいにスタンプラリーを実施をしております。今、2年目ですけれども、今年もう少し参加店舗数を増やしたりして多くの方に緑区、若葉区を回遊していただきたいと、取組を進めていきたいと考えております。

それとイルミネーションにつきましては、イルミネーション実行委員会で、商工会議所や地元の商店街で組織する団体が中心になって委託で提案を受けながら、どういったイルミネーションにしようかとやっているわけですけれども、今、御指摘のとおりJR千葉駅から中央公園に至るそこまでの動線、何とかしていきたい気持ちは一緒でございますので、様々なイベントと組み合わせるなど、ナイトタイムエコノミーの指摘もございましたので、ちょうど今あそこのプロムナードを広げる計画もございますので、そういうものを加味しながら地元の方と一緒にになって、少し考えていきたいと考えておるところでございます。

それと工場夜景につきましては、今、市原市と協議会を設けまして毎年モデルプランをつく

りながら、どういった方が参加していただけるのか、収益が上がるものなのか実証をやっております。今年度はインバウンドの方を連れてきて、どのような目線で見られるかをやっておりますので、ここも合わせてイルミネーションなどといったものと周知をしていきたいと考えております。

最後に野球の話がございました。

実は千葉市に宿泊で来る方の約2割が音楽フェスやM I C E、または野球観戦などスポーツ観戦に来ているという事実が、この間のアンケート調査で分かりました。ですので、今、ちょうど観光振興取組方針を策定中ですけれども、そういった中でスポーツツーリズムの言葉が上がっておりまます。ぜひスポーツを見る、またはスポーツをやりに来る方が市内で消費をしていただくような、そういった仕組みを今後つくっていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○委員（石橋 毅君） 答弁ありがとうございました。

お願ひですけれども、先ほど言い忘れたのですが、施設の利用料、今、市場と競輪場が未納になっている。これは、なぜ心配しているか、前の市場のときに未納がずっとあって、こういう資産があると追っかけたんだけれども、最終的には取れずに終ってしまったんですが、今年また出ているものが去年からのと同じだと思うんです。これから施設を利用するにしても、もう当然諸経費がかかりますよね。電気代が上がる、水道代が上がる、売上げが少ない、払わないとい。だけど電気代は千葉市が払う状態になっているのかと。

ですからこれは絶対に不能欠損で落とすようなことのないように、適宜、早期に手を打っていただきたいと思います。だんだん膨れることによって不能欠損で処理されることになると、税金で対処しておりますので、その点ぜひ大変だと思いますけれども、よろしくお願ひをしたいと思います。

終わります。

○主査（白鳥 誠君） ありがとうございました。企業立地課長。

○企業立地課長 申し訳ございません。企業立地課でございます。

先ほど樋澤議員からの御質問の中でネクストコア千葉誉田の大企業、中業企業どれくらいなのかで今確認いたしまして、大企業が2社、中小企業が3社になっております。

以上でございます。

○主査（白鳥 誠君） ありがとうございました。よろしいですか。

以上で、経済農政局及び農業委員会所管の審査を終わります。

説明員の方は御退室願います。ありがとうございました。御苦労さまでございました。

[経済農政局・農業委員会退室]

指摘要望事項の協議

○主査（白鳥 誠君） それでは、経済農政局及び農業委員会所管について、指摘要望事項の有無、また、ある場合はその項目について御意見をお願い申し上げます。

初めに、経済農政局についていかがでしょうか。

複数の意見が結構あったと思うんですが。森山委員。

○委員（森山和博君） 私、大事なところはたくさんあるんだろうと思うんですけども、ここ最近やはり千葉アントレプレナーシップの教育を力を入れていらっしゃるんだと思います。このことに関しては、非常に効果があるとかないとかを判断する各委員の感覚にもよりけりだと思いますので、事業を評価するのが難しいと思うんです。この辺を上手に今後展開していくかなければいけないという指摘、また、こども・若者会議との関係、これを整理なさるのはどうでしょうかとの指摘でございます。

○主査（白鳥 誠君） ありがとうございます。今、森山委員からはアントレプレナーシップの件について御発言がございましたが、ほかにございますでしょうか。梶澤委員。

○委員（梶澤洋平君） 複数の委員の皆さんからありましたけれども、奨学金の返済事業が1件で、もう少し何とか広げていくなど、そのようなことが必要ではないかと申し上げておきたいと思います。

以上です。

○主査（白鳥 誠君） ありがとうございます。梶澤委員からは奨学金の返済についての件がありましたけれども、ほかにございますでしょうか。山崎委員。

○委員（山崎真彦君） 250競走はありますか。今、休止しているところで競輪に関しては持続的な事業運営と、先ほど梶澤委員からありましたけれども、使っていない間の施設の有効利用のような指摘をできればと思います。

○主査（白鳥 誠君） ありがとうございます。ただいま山崎委員から250競走について、施設の面も合わせて出ましたけれども、ほかにございますでしょうか。渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） 農業分野も1つ。食のブランド干についてはかなり皆様から御意見があつて、ブランド力がどこまでなのかはありますけれども、今、結構力を入れていらっしゃるので、そこも一つ指摘してはいかがかと推進の状況を見て思いました。

○主査（白鳥 誠君） 今、渡辺委員からはブランド干について複数の意見があったので取り上げてはいかがと御意見がございましたけれども、ほかにございますでしょうか。

取りあえず、それぞれ御意見どおりだと私も思いますが、複数の意見ではなかつたんですけれども。（石橋委員「発言が録音されているだろうから、多くの質問があった部分を指摘要望事項にしていただければ。よろしくお願ひします」と呼ぶ）では、基本的には経済農政局の中で今発言があった部分を含めて考えて選ばせていただいてよろしいですか。（「いいです」と呼ぶ者あり）ありがとうございます。

次に、農業委員会所管について指摘要望事項がある場合については、その項目についての御意見をお願いします。

農業委員会についても何かあれば言っていただいて結構だと思いますので。農業委員会は、なしでよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○主査（白鳥 誠君） ではそれは、なしで農業委員会についてはまとめさせていただきます。それでは、ただいまの御意見を踏まえて、正副主査において経済農政局、農業委員会所管の指摘要望事項の案文を作成させていただき、9月26日金曜日の本会議散会後に開催される分科会におきまして御検討をお願いいたします。

以上で、本日の日程は終了いたしました。

次回は、9月26日金曜日の本会議散会後に環境経済分科会を開きます。

本日はこれをもって散会といたします。

御苦労さまでございました。ありがとうございました。

午後2時33分散会